知の力を活かせる人に

私たちは、生徒皆さん一人ひとりと誠実に向き合います。

皆さんが、将来に渡って活躍できる土台となる、

有機的知識・思考力・コミュニケーション能力・心の強さを

身につけていくことを常に念頭に置いた指導をお約束します。

何より、皆さんの意欲や好奇心といった心の中の火を

無味乾燥な受験勉強で消してしまわない、

活き活きとした環境を提供していきます。



Gnoble

難関大学・医学部を目指す中1生~大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。 その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、 前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で 学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員 の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる 環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さん をしっかりサポートしていきます。





楽しいゲームや歌、工作やダイアローグなどの 楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、 書く、4つの基礎力を伸ばします。先生2名に生 徒は8名程のクラスで、90分間ネイティブの自 然な英語に触れ、親しむことができます。ご家 庭での学習にも配慮したオリジナル教材で、 保護者の方とも一緒に楽しく学習できます。







先進のカリキュラム、精選されたオリジナル テキストを基に、経験豊かな講師陣が子ども たち一人ひとりに向き合った集団授業を展開 し、難関中合格へ導きます。学習したい単元や 志望校別のクラスが選択できるなど、個々の 中学受験に適した受講スタイルを提供してい きます。

中学受験を目指す小学生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可 能性を引き出し、伸ばしていきます。グノーブル のテキストや他塾テキスト、市販の書籍等を使 用し、学習状況に合わせて、講師1名に生徒2 名、または生徒1名の個別指導を提供します。 中学受験グノーブルと同じ場所なので、集団 授業も並行して通うことが可能です。







Gnoble 大学受験 グノーブル 中学受験 グノーブル 個別指導 グノリンク 英会話 グノキッズ WWW.gnoble.com

GL13-1406-1

Gno-let vol.13 発行:株式会社富士教育出版社 〒162-0816 東京都新宿区白銀町5-15

監修: グノーブル編集部 制作・編集: 日経 BP コンサルティング

もっといい明日が見えてくる —Letters from Gnoble

保存版

Gnoble GROUP



CONTENTS

8期生 合格者インタビュー

●東京大学 文系

P1-16

●東京大学 理系

P17-29

● 園立・ 医学部

2014年東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていくときに大切なことは、先輩の体験や 先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った 勉強法を確立していくことです。このグノレットの中 に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しく ださい。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんなときには、あらためてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもらえると思います。

2014年6月 グノレット編集部

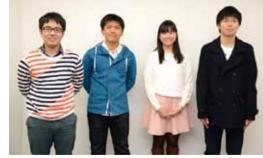
今年度の東京大学合格発表はインターネット(レタックス)でのみ行われました。インタビューを実施した教室には番号掲示を用意し、東京大学合格の出席者には自分で番号を指さしていただきました。

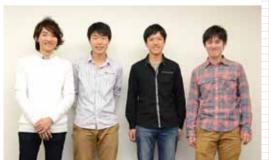












8期生 合格者インタビュー

東京大学

文系

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



かいの せいじゅ **飯野 聖樹** さん (文Ⅲ·学芸大附属)



えんどう み ® **遠藤 実結** さん (文Ⅲ·雙葉)





かわら としゃ **河原 俊弥** さん (文 I ·麻布)



ないとう みゅき **内藤 美幸** さん (文Ⅲ·鷗友女子)



なかにし まさき **中西 正樹** さん (文 I ·開成)

Part 2



いわだれ ゆ か **岩垂 佑佳** さん (文 I ·女子学院)



梶 颯人 さん (文Ⅰ·開成)



川手 魁 さん (文Ⅱ·筑波大附属駒場)



ごんどう たくじ **近藤 卓司** さん (文Ⅱ·麻布)



はやしまる **林 眞子**さん (文I·桜蔭)



藤田 浩之助 さん (文I·渋谷教育学園幕張)



tisha y (と **村上 陸人** さん (文Ⅲ·麻布)

8期生 合格者インタビュー

東京大学文系

Part (

グノには、先生と生徒の相乗効果があって、 教室全体でがんばろうという気持ちが 共有できていたんじゃないかと思います。

飯野 聖樹さん(文Ⅲ・学芸大附属)

入塾のきっかけ

飯野: グノに通っていた兄*が大絶賛していたので高2 の春期講習に参加しました。最初の授業から直感的に、 「この塾ならいける!」と自分の中で響くものがありまし

た。授業中に当てられたこと自体が 驚きで、単なる講義形式の授業と 違って緊張感があるし、授業で扱う 内容も素晴らしくて、ずっと集中力 が保てました。周りには優秀な人が たくさんいて、「ここならもっと伸 ばせる」と思いました。

遠藤: 私の場合は、英語に自信がなかったので、学校の友だちに話を聞いたんです。「グノの英語はすごくいい」と積極的に勧めてくれた友人が、とても英語のできる人だったので間違いないだろうと思い、すぐに入室テストを申し込みました。高2の1月でした。

入塾してから気がついたのですが、 雙葉にはグノに通っている人は結構 いて、よく、休み時間にグノの授業 で扱った内容を話題にしていました。

大畑: グノに入ったのは高2の11月です。最初は理系を志望していたので数学と化学の塾には通っていたんですが、文転したので英語の塾に通わなきゃと思ったんです。学校の友人の多くはグノだったわけではありませんでしたが、通っている友人が必ず「いい!」と言っていましたし、彼らの英語の成績が良かったということもあってグノに決めました。

河原:僕は高2の夏明けに入りました。同じクラスに学年1位の友人がいて、「どうして英語できるの?」と聞いたらグノの α^{**} で勉強してるからと言われて、僕もグノの α を目指してがんばろうと思って入りました。

麻布にはグノの $\lceil \alpha$ 神話fillがあって、代々優秀な人はhoで英語を習って東大に入るという言い伝えがあり、僕も

αに入って力を伸ばそうと誓ったんです。でも、最初はα2からのスタートでした。

内藤: 私は高3の夏まではテニス部を続けると決めていたので、英語は少し早めに塾に通わなきゃと高2の春から通い始めました。私の学校はそんなに東大に入る人が多くはありませんが、グノで英語を学んで東大に合格した先輩がいらしたので私もグノにしました。

新高3から数学でもお世話になりました。英語の印象がとても良かったので、数学もグノでやってみようと思ったのです。先生が机の間を回ってくださって私たち一人ひとりを見てくださったので、それまで数学の塾に通っていなかった私でも安

心して受けられました。

中西: 僕は、中1のときに開成生がたくさん通っているからという理由で別の塾に入りましたが、結局、自分には合わないと思ってやめました。英語をたくさん読む塾にも通ってみましたが、大学受験に対応できるのかという疑問が湧き、高1からまた別の塾に通いました。ところがその塾は、英文をいちいち構文解析していく教え方をしていて、1カ月間授業をやっても読む英文が2つと



飯野 聖樹 さん(文Ⅲ・学芸大附属)

か3つという感じで不安になりました。友人に教えてもらって、高2の始めにやっとグノに出会えました。

グノーブルの英語

中西:「英語のまま」というのがグノの最大の特徴ではないでしょうか。英単語を覚えるときも、日本語訳を覚えるやり方ではなくて、語幹や原義を意識しながら文脈の中で意味を把握していきます。構文も型通りの訳し方を暗記するのではなくて、その成り立ちから教えてもらえるので、英語的な発想を理解していけます。

それまで英語といえば、 「英語:日本語」をセットで 覚えて、それをテストされ てというやり方でしたが、 グノの場合は、英語のまま 使える力を鍛えていくとい

う点を重視していました。僕にはグノのやり方は新鮮だっ たし、本当に力がつきました。

遠藤 実結 さん(文Ⅲ・雙葉)

内藤: 先生が手や体全体を動かしながら、英単語や英語表現のイメージを説明してくれるんです。一人で英文を読んでいても自然にその様子が浮かんでいましたし、読みながら自分の体も自然に動いていました。

私は α 2からのスタートで α まで上がれましたが、 α で扱うプリントは半分もできなくて、ついていけないと

感じた時期もありました。でも、先生のおっしゃる通りに音読を続けているうちに力がついて、 本番でもG1*に入ることができました。すべて グノのおかげです。

河原: 英単語は語源から説明してくださるので、その単語の意味がどう広がっていくかもよく分かりましたし、派生語も覚えやすくなりました。単語にまつわる文化的な話や宗教的な背景まで話してくださったので本当に分かりやすかったし、こっちも博識になったように思えました。

僕も入塾はα2からのスタートでしたが、一気に力を伸ばしていただけました。後半伸び悩んだ時期もありましたが、相談に行ったら的確なアドバイスがもらえて、やっぱり少人数の塾は違うなと思いました。僕もG1に入ることができたのは間違いなくグノのお陰です。

大畑: 僕は α 3が最初で、そのうちに α に入れ

ましたが、 α では1回の授業で扱う量がとにかく多くて、ちょっと圧倒されました。でも直前期になって、「これだけグノでやってきたんだから大丈夫だろう」と思えるようになったのは確かです。グノで学んだ質と量があったからこそ、落ち着いて本番に臨めたと思います。

して使えるようにするには一定の速度と量は 大切だという先生の説明に納得していました。 私の中でも大きかったのは単語を覚える意 識が変わったことです。グノのやり方だと、 単語を覚えるというより、自然に頭に入って くる、という感じだったんです。以前は、単 語帳で一度覚えてもしばらくすると「あれ

遠藤:私もグノの授業は、「速くて情報量が

多い! |と思いました。でも、英語を言葉と

単語を覚えるというより、自然に頭に入ってくる、という感じだったんです。以前は、単語帳で一度覚えてもしばらくすると「あれ、これどういう意味だっけ?」ということを繰り返していたんです。グノで勉強しているうちに自然に語彙力も伸ばせましたし、知らない単語が出てきても、その単語の構成や文脈から推測できるようにもなりました。

読解の授業で毎回扱う要約は、ずっとできなくて随分悩みましたが、先生が「ある時期を越えたら必ずできるようになります」と励ましてくださり、その言葉を信じて続けてい

たら、高3の1月くらいで実を結びました。本番に向けての大きな自信になりました。英文を読むいろんな力が総合的に高まらないと要約はできないのだと思います。

飯野: 僕にとっては周りの人のレベルが高かったことが 一番の刺激でした。高3の10月か11月頃、要約演習で 20人ぐらいの中で10点満点中8点以上の人が15人ぐ らいいた時に、僕ともう一人だけ4点以下という時があっ たんです。ショックだったということもありましたが、



大畑 毅志 さん(文1・筑波大附属駒場)

勉強のやり方を見直す機会にしようと思って、授業が終わってすぐに先生のところに行きました。あらためて音読の仕方を話していただいて、それまでも何度か聞いていたにもかかわらず、やっときに音読するときの心掛けで大切なことがつかめました。

河原:確かによくできる 人は大勢いました。自分 の中では結構できるよう になってきたと思ってい ても必ず上がいるんです。 そういう人を追いかける

^{*}飯野隼平さん。Gno-let vol.11 合格者インタビュー東大理系にご出席いただきました。 **この学年の英語は、α(最上位)から、α1、α2、α3までのレベル設定でした。

^{*}東大入試英語で上位1割の成績優秀クラス。

5

気持ちが僕の努力の源になっていたような 気がします。

大畑: 学校のテストや模試で、自分より良 い成績の人がいても「ああ、自分より上が いるんだな」と思う程度です。でも、グノ の授業で当てられて答えられなかったり、 自分の分からないことをスラスラ答えてい る人がいたりすると「ヤバイぞ」と(笑)。授 業中に当てられることは本当に重要だと思 います。

内藤: お帰り問題も同じですね。自分がま だできていないのにさっさと帰っていく人 を見ると勉強へのモチベーションが上がり ました。

中西: やはり競い合う相手が見えていると いうことは力を伸ばす原動力になるんじゃ ないでしょうか。

遠藤:私は他の人が答えているのを参考にしていました。 たとえば英文の意味を、ぴったりの日本語を使ってつな げていく人がいると、「こう言えばいいんだ」と勉強になっ たりして、他の人が当てられている時もいい勉強になっ ていました。

楽しみながら英語を学ぶ

飯野: グノで英語を勉強していて楽しかったことの一番 は、やはり力がついて英語ができるようになったと実感 できたことです。高3の秋には低迷していて要約でも低 得点を連発していましたが、字面だけを追いながらの音 読から、内容を他の人に英語のまま伝える気持ちで読む ように意識を変えたら、直前講習くらいには英文がスラ

スラ読めるようになって いました。

遠藤: グノの集中できる 時間が大好きでした。先 生が休みなくどんどん解 説してくださるときには、 ずっと英語のことだけを 考えていられて、気が散 る暇がありません。グノ の授業中に、疲れたと思っ たこともありませんし、 時間を気にしたこともあ りません。夢中で先生の 解説を聞いていました。 もともと英語は得意な方 ではありませんでしたが、 グノに通い始めてから英



内藤 美幸 さん(文Ⅲ · 鷗友女子)

語が面白くなって、そうし たら、模試の得点も確実に 上がっていきました。

大畑:僕は受験テクニック を知ることが大事だと思っ ていましたが、グノの先生 はそういう話をほとんどし ません。英語の本質をつか むことが最優先という授業 です。ところが、東大の過 **去問を解いてみたときに、** 東大が求めている英語と、 グノで学ぶ英語がリンクし ているんじゃないかと気づ いたんです。

英語のまま考えられるよ うになれば速く読めますから、

量の多い東大の英語にも対応できます。深く読めないと 東大の英語は良い点は取れませんが、グノの先生がする 余談とも思える解説が面白いのは、知的に深いからなん です。グノで楽しく勉強しているうちに、テクニックも 習得できていたのだと思います。

河原 俊弥 さん(文1・麻布)

河原: グノの先生はとても熱心に教えてくださるので、 授業には自然に引き込まれましたし、先生の熱意に応え たいとも思えました。そういう気持ちが湧いてきたので 時間を忘れるぐらい授業は楽しめました。

それに、先生がおっしゃることは深い話だったり、す るどい指摘だったり、ぜひ自分のものにしたいと思える ものだったので、それを吸収すること自体が楽しくて、 復習する時も授業のことを思い返しながら、まるで自分 が授業をするようなイメージでやっていました。

> 内藤: 高3の前期には要約は安定していなかっ たんですが、音読を続けているうちに伸びてき て、シャドーイングを始めてからさらに伸びま した。

> 中山先生がときどき、「英語の実力が上がる と、英文を読み終わった瞬間に要約でまとめな ければならない部分が浮き上がって見える」と おっしゃっていましたが、夏頃からそれが自分 でも実感できるようになって、さらに英語が楽 しくなりました。

> **中西:**グノの英文教材は扱う範囲が広くて、と きにはその週にニュースになった出来事がプリ ントになっていました。先生の解説も表面的な ものに留まることがなくて題材の背景にまで話 が及んでいき、こちらの理解も深まりました。 これほど臨場感もあって幅も広い英語の授業は 他にはないだろうと思っていました。

英語力がついた要因

中西: 英単語や熟語などを丸暗記していたらきりがあり ません。強制的にそれをやらせようとする塾もあります が、英語を学ぶ本質はそんなところにはないと思います。 グノの場合、前置詞のイメージは先牛が繰り返し絵に描

いてくれたり、手や体を使って教え てくれます。前置詞のイメージが分 かっていると、この動詞と前置詞が くっついたらごういう意味になる、 という説明がしっくりきます。イメー ジが分かっていれば仮に忘れても糸 口が見つかり、それを辿れば思い出 すことができます。自分で作文する ときにも確信を持って前置詞を使え ます。

英語の論理を教えていただけたこ とも、力を伸ばせた要因です。たと えば、東大英語の1番はAが要約、 Bが段落整序で、英文の論理展開が 問われます。これも、毎週グノで演 習をし、添削を受け、解説を聞いて いたおかげですんなり解く力が身に ついていました。

内藤:同じ英文を何度も読むと実力

がつく、という説明は他ではあまりされていないと思い ます。グノではこれが復習の中心になっていて、このや り方は本当に実力向上につながると思います。それに、 グノの先生は、単語のイメージや細かな英語表現のニュ アンスを体まで使って表現してくださるし、英文に関す る面白い余談が印象的で、楽しく復習できました。厳選 された英文を用意してくださったので、英文を何回読ん でも飽きませんでした。受験前には英語に関してはまっ たく不安を感じていませんでした。

河原: 音読のおかげで、日本語に置き換えることなく英 文をどんどん読めるようになりました。それからグノの 先生は英文の捉え方が深くて柔軟で、いつも、先生の解 説を漏らさず吸収しようとしていました。同じ語を避け るための言い換えを先生が指摘されたり、論理の組み立 てについての解説から、ネイティブのセンスを学べまし た。グノで学んだおかげで、「どんな英文でも大丈夫」と、 東大受験にも100%の自信を持って臨めるようになっ ていました。

大畑: グノの教材は十分な量があって、先生がいつも新 鮮な英文を用意してくださるという質の良さもありまし た。いい問題をたくさん解けたことに加えて解説も丁寧 でした。

他塾だったら解説プリントを配って終わらせてしまい そうなところでも、グノの先生は労を惜しまず解説して くれます。解説プリントでは読むのも大変です。効率に おいても理解の深さにおいても大きな違いがあったと思 います。

遠藤:教材は本当に信頼できました。英語に関しては、 グノ以外には何もやる必要はありませんでした。単語帳

> も必要ないですし、直前期も、過去 問よりグノのプリントの見直しを優 先していました。

> それから、先生が毎回丁寧に添削 してくださったので、自分では気づ けないウイークポイントが明確にな りましたし、嬉しいコメントでモチ ベーションが高まりました。以前、 他塾の講習を受けたことがありまし たが、予習をしていった教材の解説 を先生が一方的にしているだけでグ ノとは大違いでした。

> 飯野:僕も英語に関してはグノの教 材しかやっていません。全く心配あ りませんでした。「グノでしっかり やれば、間違いなく力がつく |と信 じていましたし、実際その通りだっ たと思います。



中西 正樹 さん(文1・開成)

受験英語とグノーブル

飯野: 受験のために英語の成績を上げたいという気持 ちがあったからグノに入ったわけですが、次第に受験 のための英語という感覚から、言語として英語を学ぶ という感覚に変わっていきました。社会で起こってい る出来事を英語で学ぶような授業は、普通の受験塾で はないことだと思います。グノに通って、英語が単な る受験科目から、それを使って情報を収集できる道具 になりましたし、道具として使えるという自信も持て るようになったのは大きいと思います。

遠藤:私は学校であまりいい成績が取れていなかったん です。そこでグノに入ったのですが、グノでは、成績を 上げるための勉強をしていたというよりも、英語そのも のを身につけていたという気がしています。英語の力が 身についていれば受験にも通用しますし、英語の本を読 むこともできますし、受験の英語はグノでやっていたこ との一側面に過ぎなかったような気がしています。

大畑: 僕は、最後までグノは受験のために使っていまし た。ただ、グノでやっていたことは受験のレベルを超え て、英語力そのものを上げるためのものだと理解してい ました。むしろこれから大学で勉強をしていく上でグノ

のような塾があったらいいなと思います。

河原:確かにグノでは受験を超えているレベルのものも扱っていましたが、僕は先生が持って来てくださるそういう高度な英文を読めていること自体に誇らしさを感じていました。先生がTED*のことを教えてくださったときにはすぐに見てみましたが、内容がどんどん理解できて、そうなっている自分が嬉しく、それからは遊びのように英語に触れるようになりました。受験を超えた英語力を養ってくれ、一流の英語に触れる機会を与えてくれて、英語を学べば世界がどんどん広がることを教えてくれたのがグノです。結果としてそれが受験にも役立ったという感じです。

内藤: 先生の解説が素晴らしかったのだと思います。一読しただけでは難しい英文でも、先生の解説を聞くとすみずみまで理解できて、英語がどんどん楽しくなりました。私が文Ⅲを志望したのも、グノで英語の楽しさを知ったからで、将来も英語を使う仕事をしたいなと思っています。直前の授業まで私にとっては受験勉強をしているというよりは、グノで英語を楽しく学んでいる感じでした。



飯野 聖樹 さん(文Ⅲ・学芸大附属)

中西: そもそも東大は、ちゃんとした英語の力を受験生が備えていることを求めているのだと思っていたので、塾に受験のテクニックは求めていませんでした。最初から本物の英語を学びたくてグノを選んだという感じです。結果として、アメリカのニュースを見ていても十分リスニングできる力はつきましたし、さらに英語力を伸ばしていくための正しい方向性での指導が受けられたと思っています。

グローバルな視野を持って

中西: 具体的に、「こんなふうに海外で活躍したい」と決めているわけではありませんが、実用的な英語力が求められる機会は必ずあると思います。

河原: 僕は大学3年の時に、プリンストンかハーバードに行きたいと思っています。最初はα2からでしたが、グノのおかげで普通に帰国子女とも英語力では渡り合えるようになったので、大学に入ったらあと2年間さらに

英語をブラッシュアップして留学したいと思っています。また、幸いにしてG1に入ることができたので、TLP**に参加するとか、チャンスはどんどん活かしていきたいと思っています。

内藤: 私はもうTLPに申込みをしました。先輩に話を聞いたら、TLPで中国留学をすると中国語はペラペラになるとアドバイスされましたし、せっかくのチャンスなのでぜひチャレンジしたいと思いました。

遠藤: まだ、はっきりとしたビジョンがあるわけではありませんが、留学はしてみたいと思います。そして将来は、通訳や翻訳の仕事に興味があります。

グノに通わせていただいたおかげで英語もかなり聞き 取れるようになって、それで面白いと気づいたのは、映 画のセリフと字幕との関係です。どうしてこの単語が省 かれたんだろうとか、この日本語の当て方は面白いとか、 そんなことにだんだん興味を持つようになりました。た とえば単数の一人称は英語だと一つしかありませんが、 それにどんな訳語を当てるかで随分印象が変わります。 グノの授業中にも、和訳を当てられた人がどんな訳し方 をするのか興味を持って聞いていました。同じ単語でも 訳し方にはその人なりの個性みたいなものが表れて面白 いなと思ったんです。

グノのおかげで英語の力が上がって、なんとなく自分 の世界が広がったような気がしていますし、ここで学ん だことを、もっと深く突き詰めていけたらなと思ってい るんです。

グノーブルの先生たち

飯野: 先生方は専門の教科にとどまらず、幅広い教養を 持たれています。中山先生からは英語だけでなく、本当 に多くのことを教わりました。お話しになる先生の様子 が活き活きとされていたことも、グノの授業の楽しさに つながっていました。本原先生のおっしゃるひと言の中 に、何度もキラリと光る知性を感じていました。

遠藤: 私たちの顔と名前を覚えていてくださることが嬉しかったです。私たちのことをよく分かってくださっている先生が一生懸命に話してくださるので、私たちも集



遠藤 実結 さん(文Ⅲ・雙葉)

*さまざまな分野の人物がプレゼンテーションを行なう世界的なイベント。インターネット上で動画が無料配信されている。
**前期入試の英語成績が特に優秀だった学生(上位一割)を対象とした、国際的に活躍できる人材を育成するトライリンガル(日英中の3言語)プログラム。

中して聞けるんだと思います。

本番の朝、受験生で混雑している駒場で嬉しいことがあったんです。グノの幟(のぼり)が見えたので私がそれを目指していたら、中山先生が私を見つけて「遠藤さん!」って声をかけてくださったんです。ああいうときって、私たちの方から「先生!」って声をかけるものだと思うんですけど、先生が私を見つけて声をかけてくださったことが本当に嬉しくて、心強くて、一瞬で緊張も解けました。



大畑 毅志 さん(文1・筑波大附属駒場)

先生は、授業が終わって生徒が帰るときにもいつも最後まで残って、一人ひとりに「さようなら」と声をかけてくださるんです。授業の時も、当てられた私たちが間違った時には、「大丈夫かな?」って感じでずっとこちらを見ていてくださるんです。先生とは目でも会話が成立している感じなんです。そんな先生だから、「ついていこう!」って私も思えました。

大畑:中山先生は生徒を相手にしても、必ず敬語を使って話されます。それがとても素晴らしいなと思っていました。とても紳士的に、1対1の人間関係を大事にしてくださっていることが嬉しかったです。それから情熱を持って授業をされるので、こちらも元気がもらえる感じがいつもありました。本原先生は淡々とした授業運びをされますが、僕自身がわりと淡々としている方なので本原先生のペースも気持ちよかったです。

河原:中山先生は、「大切なのは英語のまま解釈することで、和訳は、大学受験では問われるけれど、あまり意味はない」とおっしゃっていましたが、先生の和訳はとてもきれいなんです。先生は英語でしっかり意味を把握されているので、それで授業の解説で英文を読みながら超高速に和訳をしていくときにも、美しい訳ができるんだと思っていて、それを自分でもお手本にしていました。

本原先生は英文法のことなら何でもご存じで、質問すると何かを調べることもなく即座に教えてくださいました。しかも、本原先生の解説を聞いていると、たとえば助動詞の使い方の中にもネイティブの感覚が見えてきたりして、よく感動していました。

内藤:数学の長澤先生のおかげで、一つひとつの問題を

解きながらも全体が俯瞰できるようになりました。それから、授業では結構厳しいことをおっしゃいますが、個人的に質問に行けば、時間を気にせず丁寧に答えてくださいます。一人で何時間も質問をしてしまったこともあります。

英語でも、数学でも、グノーブルの先生は一人ひとり を見てくださっていました。学校でもグノの先生の話題 がよく出ていましたし、やっぱり先生が素晴らしいから 皆グノが大好きになるんだと思います。

中西:とにかく親切な授業、丁寧な接し方をしてくださるというところがグノの先生の素晴らしさだと思います。一番印象的だったのが、去年の夏のことです。本来は僕たちが自分でダウンロードすることになっている音声教材を何回分かダウンロードしそこねたことがありました。録音をお願いするために夕方に受付に寄ってCD-Rを置いてきたんです。その晩、「準備できましたからいつでも受付にきてください」という電話を先生から直接いただけたんです。授業以外のところでも僕らのことを優先的にやってくださることを実感しました。

内藤: 数学では、テストゼミで出した答案がいつも真っ 赤になって帰ってきました。長澤先生の手書きで本当に 細かく添削してくださっているのを見て、これだけやっ てくださるのだから自分もやらなきゃいけないなと思いました。

飯野: グノには、先生と生徒の相乗効果があって、教室 全体でがんばろうという気持ちが共有できていたんじゃ ないかと思います。



河原 俊弥 さん(文1・麻布)

映像授業とライブ授業

飯野: 映像授業より対面型の授業の方が僕はいいですね。 授業の中で当てられることが僕にとってはすごく大事で したし、映像授業だと疲れていれば寝てしまうと思いま す。映像授業はよほど主体性がないと無理だと思います。

遠藤:模試の解説くらいなら映像授業でもいいと思いますが、毎週受ける授業を映像で受けようとは思いません。 もちろん勉強は、どんな形態であっても自分の意志で取り組むものですが、グノの場合は先生方が引っ張ってく ださる効果が大きかったと思います。振り返っても、一 人ではここまで英語力を伸ばせたとは思えません。

大畑: 一長一短あると思いますが、特に英語という教科で考えるならば、映像よりも教室で先生と向き合いながらやる授業の方が性格的にも合っています。

河原: 塾の勉強は、授業の臨場感ということだけではなく、すぐに質問ができることも大事だと思います。

内藤: 映像授業は淡々と進んでしまいます。それは先生がカメラに向かって授業をしているわけですから当然だとは思うのですが、響くものがありません。グノだと、先生が生徒一人ひとりの顔を見てこちらの理解度を確認しながら授業をされます。先生が、「あ、理解できていないな」と判断されれば違った角度から解説を加えてくださいます。こういうことは教室で先生と向き合いながらのライブ授業だからできることです。

中西: 映像授業が必ずしも悪いということではないと思うんです。 映像授業は融通が利きやすいので使い方次第です。 ただ、先生の熱意は伝わってこないので、 やる側が強い気持ちを持っていることが必要です。



内藤 美幸 さん(文Ⅲ・鷗友女子)

後輩たちにアドバイス

飯野: 勉強の質を高めることです。僕は高3の5月ぐらいまで部活をやっていて、夏休みも文化祭の準備に追われ、なかなか勉強時間が取れませんでした。でも、集中して勉強することで乗り切れました。集中力が途切れがちになりながら10時間勉強するくらいなら、5、6時間集中して勉強する方がいいと思います。

遠藤: 私は直前までいろんな教科がギリギリでしたが、 そんな中で、英語はグノでやってきたので大丈夫だと思 えました。一つでも自信を持てる教科があることはすご く良いことだと実感しています。

英語に関しては、先生がおっしゃったことをベースとしながら、自分に合ったやり方を工夫して積み上げていけば必ず力がつきます。 せっかくグノで英語を学んでいるのなら、まずは英語で自信をつけて気持ちに余裕を持って受験に臨むのが良いと思います。

大畑: グノのプリントとテキストをきちんと保管してお

いて、常に復習ができるようにしておくことです。よく、「英数国は夏までに固めろ」と言われますが、実際にそれまでにしっかりやっておくと、社会とか理科に回せる時間が生み出せます。ただ、英語は毎日やらないと力が落ちます。短時間でも音読を習慣化すると良いと思います。



中西 正樹 さん(文1・開成)

河原:グノの先生がおっしゃったことをしっかりやること、そして、煮詰まったら先生に相談することです。僕も秋頃、他の勉強との兼ね合いもあってかなり追い詰められた状況にあったんです。でも、的確なアドバイスがいただけて、それで気持ちも楽になりましたし、勉強のやり方を見直すこともできました。つまずきを自分で抱え込まずに、先生に相談することが大事だと思います。グノは少人数なので、先生は僕たちのことをよく分かってくださっているんです。

内藤: 私は高3の8月まで部活があったので勉強に対して不安もありましたが、信頼できる先生方がグノにいらしたので精神的な支えになっていました。後輩の方もグノに通い続けていれば先生たちは私たちのことをちゃんと見ていてくれると信頼していればいいと思います。

あと数学の長澤先生の授業で反省シートを書いていたんです。そのおかげで、なぜ間違えたのかを深く考えるようになり、他の教科にも応用することで全般的に力を伸ばせました。間違えた問題についてはとことん追求して欲しいと思います。

中西: 英語に関して絶対言いたいことは、間を開けないということです。開成は運動会が大イベントで5月の中盤頃まで全く勉強ができません。それが終わっても他科目の勉強を優先して、英語に関しては少し油断していたんです。そうしたら夏の模試で60点を割ってしまいました。音声教材をCD-Rに焼いていただいたのもその時期です。短い時間でも音読は続けておくべきだったと反省しました。

あと英語に限らず、納得いくまでやり切ることが大事です。そうすれば、本番でも緊張することはないと思います。受験に向かう自信というのは、自分がどれだけ納得のいく勉強を積み重ねてきたかが決め手になると思います。

8期生 合格者インタビュー

東京大学文系

Part 2

グノは先生が目の前にいらっしゃるんです。本当に目の前で、

私たちに向かって、私たちの知りたいことを解説してくださるので集中力も途切れません。 授業に集中できていると、復習も効率よくできて勉強が楽しくなります。

岩垂 佑佳さん(文Ι・女子学院)

入塾のきっかけ

岩垂: 母が知り合いから、「すごくいい塾」と聞いてきて教えてくれました。それで、高1になるときにグノの春期講習を受けました。同時期に大手の塾もいくつか受講しましたが、どこも先生が遠く、自分に対して教えてくださっている感じがしなくて授業に身が入りませんでした。グノは、先生が一回授業を受けただけで名前を覚えてくださり、丁寧な添削をしてくださり、一人ひとりを

大事にしてくださる印象が強く、グ ノの良さが際立っていたのでグノに 入りました。

私が入った頃は女子学院の生徒は 多くはありませんでしたが、学年が 上がるにつれてどんどん増えて、高 3になったら学校に行くと周りがグ ノ生ばかりになっていました。

梶: 入塾は高2の4月です。中学時代の友人のお母さんから母がグノの評判を聞いてきました。開成は別の塾に通う人が多いのですが、その人たちも、そこの英語についてはあまり良くは言わず、一方グノの英語は、通っている人の中では圧倒的に素晴らしいと評価が高かったのです。

川手:学校の友人に勧められて高1 の春期講習を受けてグノに入りまし

た。筑駒も他塾に通う人が多いのですが、そこは宿題が 多く、学校に宿題を持ち込んで授業中にやっている人も たくさんいたので、そうした詰め込み型の塾は嫌だなと 思ったことと、少人数なのでグノなら力が伸ばせるだろ うと思い決めました。 筑駒でも通っている人の間ではグ ノの英語はとても評判が良かったです。

近藤: 僕は中1から他塾に通っていましたが、中3ぐらいから伸び悩み、グノの冬期講習を受けました。授業のスタイルが全然異なり、印象もすごく良かったので高1の春からグノに入りました。

麻布でも僕が入った時はグノ生がたくさんいるという 感じではありませんでしたが、やはり学年が上がるにつ れてどんどん増えました。やはり、それまでは塾を変え る必要性を感じていなかった人も、次第に受験が現実味

を帯びてくると、「もっと英語の力を伸ばさなきゃ」と考え始めて「仕上げはグノで」という人が多かったような気がします。

林:中1の夏からです。私の学校では中1から塾に通っている人が多くて、私も英語だけは塾に行こうと思い始めていたんです。中学受験の頃から評判は知っていたので、「英語の塾に通うならグノかな」と思っていました。実際に通ってみたら、すっかり気に入り、それ以来ずっとグノです。

桜蔭でもグノ生は徐々に増えましたが、高3の頃の印象ですと、同じ学年というより後輩にグノ生が多いと感じていました。

藤田:高1の時には予備校に通って

いたんですが、物足りなく思い、高2からの転塾を考えました。

レベルが高そうな塾をネットで探していたら、「グノーブルは生徒に対して先生が紳士的」という評判が気になっ



岩垂 佑佳 さん(文1・女子学院)

て、ひとまず春期講習を受けてみることにしました。 実際に授業を受けてみて、 レベルの高さといい、先生 の生徒に対する接し方も「ここなら間違いない」と思えた ので入塾することに決めました。

数学は以前の予備校にそれほど不満があったわけではなかったのですが、グノの春期講習で数学もとってみたところ、数学もとても気に入りました。それで、英数同時にお世話になることにしました。

学校の中ではグノに入っ

たのは僕が初めてです。その後、友だちを数人誘ってきました(笑)。

村上:高2の10月くらいから受験勉強を意識し始めて、最初は独学でがんばっていましたが、冬くらいに「英語は独学ではちょっと無理かも」と思い始めました。学校で友人に聞いてみたら、たまたま隣に座っていた人がグノだったし、周りにもグノに通っている人がたくさんいることが分かって、「じゃあ、グノ行くか」という軽い気持ちで決めました。入ってみたらとても気に入り、麻布生が多い理由が分かりました。

グノーブルの英語

村上:実はグノに来る前に一回だけ大手塾の体験授業を

受けましたが、参考書の受け売りのような授業で論外でした。その点グノは、受験英語ではなく、英語そのものを学ぶという感じがして魅力的でした。それまで塾に通わなかったのも、友人の話を聞く限り、どこの塾も受験中心のカリキュラムが組まれているようで、そこに通うと思うと気が重かったのです。でもグノは、最初の授業を受けた時から本物の英語を学べることが直感的に分かりました。

藤田:一番いいと思ったのは一回の授業で学ぶ英文の量が多いことです。授業のスピードも早く、時間当たりの密度が濃くて、退屈しなくて集中できるところが良かったです。

林:「音声教材をしっかり」というのはグ ノの一貫した指導です。中学の頃は短い



梶 颯人 さん(文I・開成)

例文の音声を繰り返し聞いていました。授業の最後にディクテーションをするのがいい緊張感につながって、大切な文法を例文でと耳で覚えてしまうのが習慣になっていました。グノの宿題は多くなく、まだ遊ぶ時間も欲しかった中学時代には、負担が軽いのに文法の土台はしっかり築けたので良かったです。

近藤: 以前の塾は、授業=宿題の答え合わせという感じでしたが、グノはその場で演習して、添削してもらった答案を見ながら先生の解説を聞くという授業です。解いたばかりの問題なので印象深く、新しい知識も自然に身についてしまう感じで、効果が全然違いました。

それから、英作文は先生に添削していただかないと勉強を進めるのが難しいと思い

ますが、グノでは授業の中で英作文をたくさん書いてすぐに見てもらえるので、自然とコツも覚えられました。

川手: 入塾してみて、周りの人のレベルの高さにまず驚きました。最初はα2*からのスタートでしたが、周りの人が問題を解いていくスピードも速いのです。こういう高いレベルの環境でやっていけば伸びるはずだと確信していました。それから、グノはクラス分けテスト**もターム毎にあるので、それを目標にできたところも良かったです。

梶:僕も、授業に冗長なところがないのが気に入りました。授業中に問題を解くので集中できるし、解説のときも先生が僕たちに必要なことをしっかり把握されているから無駄がありません。

学校の授業中にも塾の宿題をやらなければ終わらない

という人が多かった中で、グノ の宿題は、量は多くないけれど 手応えのあるものでした。宿題 に時間を割いたからといって力 が伸びるとは思えませんし、宿 題に追われるよりも部活などに 打ち込む方が、結果的には受験 も上手くいくんじゃないかと思 います。

岩垂:体験に行ってみたどの塾や予備校でも、家で予習、授業は答え合わせというスタイルでした。そもそも予習の段階で辞書を調べることもできてある程度答えが分かっているし、分かっていることを先生がいつまでも解説していることもよくあって

眠くなってしまいました。

グノの場合はその場で問題を解きます。それを教えて くれる先生がその場で添削してくださり、コメントや点 数もつけてくださるので「もっとがんばろう」と思えたり、 緊張感が違いました。

それに、グノは先生が目の前にいらっしゃるんです。 本当に目の前で、私たちに向かって、私たちの知りたい ことを解説してくださるので集中力も途切れません。授 業に集中できていると、復習も効率よくできて勉強が楽 しくなります。

楽しみながら英語を学ぶ

岩垂: グノに来る前は、私は英文を 読むことの楽しさを知らなかったん です。長文の読解が苦手で、模試で も、特に理系の英文が出てくると内 容が全然分からなくてカンで答えを 書いていただけでした。ところが、 グノで用意してくださる英文は、な ぜか面白いと感じられたんです。先 牛の解説が分かりやすかったことが 大きいと思うのですが、用意してく ださるジャンルも幅広く、内容も興 味を惹くようなものばかりで、今ま で知らなかったこともグノの授業で 知ることができるようになって、い つのまにか、「今日はどんな内容だ ろう」と英文を読むのが楽しみにな りました。



かったです。たとえば筆者が同じ言葉を繰り返すのを避けて言い換えている部分を中山先生がときに「これ、さっきの何の言い換え?」と質問されたり、どんどん指摘されていくんです。自分ではなかなか見つけることができませんが、解説を聞くと、書いている人の呼吸まで伝わってくる気がしました。その他にもいろいろ、先生がてきばきと指摘をして、次々と明快に解説していく様子が僕には爽快でした。自分一人では見えていなかったものが、どんどん見えるものに変わりました。

川手: 毎週新しい英文を用意してくださるところが授業の面白さになっていました。他塾の話を聞いていると、早い時期から過去問ばかりやっていたようですが、それでは読む英文が古いものになってしまいます。ところがグノは、最新の話題も頻繁に扱ってくださったので興味も湧いたし新鮮でした。扱う英文に関しては先生が背景まで話してくださったので、いろいろ教養を蓄えられたし、文章の背景まで目を向ける習慣が身につきました。

普段、自分で新聞を読んでいるときにも、「筆者の視点は一面的過ぎるんじゃないか」と考えたり、見る眼が変わりました。

近藤: グノでは、英単語の語源にさかのぼって説明してくれて、芋づる式に派生語までどんどん紹介してくれました。それまでは、単語帳を使って英語と日本語の1対1で暗記することが当たり前だと思っていましたから、グノのやり方は新鮮で、その説明自体に興味が持てました。

また、単語の持っているイメージまで教えてもらえたので、和訳のときにも単語帳や辞書に出ている訳にとらわれることなく、その場に合った訳し方ができるようになりましたし、知らない単語が出てきても意味を想像で

きるようになりました。

林:毎回、英文の内容がためになる ものだったので、先生たちは英文選 びを工夫してくださっているんだな と思っていました。

グノで扱う英文の内容はずっと印象に残り、そこで得た知識が別の文章を読んでいるときに活きることもしばしばありました。また、世界史の勉強をする意識も変わりました。私も教養をもっといっぱい身につけたいと思うようになりました。

藤田: 英文の中には、自分で読んで も内容が分からないものもあります。 普通の授業だと単語や構文の解説で 終わって内容は不明のまま過ぎてい くのですが、グノだと先生が分かり やすく解説してくださるので、その

英文で扱われていることが自分の教養を培う栄養にもなりました。受験勉強をしていると読書の時間も減ってしまいますが、毎週グノの英文をいくつも読むことで、それを補充することができましたし、自分では手に取ることもない話題まで扱ってくださったので本当に授業が楽しみでした。

近藤 卓司 さん(文II・麻布)

村上: グノの先生は、幅広い知識も英文の深い読解力もお持ちです。一見読み流してしまいそうなところに込められている筆者の思いまで指摘してくださったので、読みが深くなりました。それから、いろんなジャンルを扱ってくださったので、英語を勉強しながら、新たな情報や知識を収集しているという印象を持っていました。

ときには現地で発信された情報をすぐに教材にしてくださるので、日本で話題になるよりも早く授業で読めることもありました。たとえば、「歩きスマホはやめましょう」といった英文を授業でやった後に、日本で盛んに言われるようになって、「これグノの授業でやったことだ」



川手 魁 さん(文Ⅱ・筑波大附属駒場)

*この学年の英語は、a(最上位)から、a1、a2、a3までのレベル設定でした。
**原則としてクラス分けテストは年3回実施。

と思い、ちょっとした優越感を味わっていました。

授業で、東大のFLYプログラム*のことを扱った英文をやったことがあって、それで海外にも目が向くようになりました。今は教養学部の交換留学制度のAIKOM**に参加してみたいと思っています。

英語力がついた時期

村上: 以前は、自分では英語ができる方だと思っていました。学校の定期テストでもさほど苦労せずに点も取れていたので少し甘く考えていたんです。ところが入室テストを受けたら一番下の α 3になって、そこでも周りの人がすごくできたので戸惑いましたし、ショックでした。

グノに入って、それまでの勉強方法を変えました。単語帳を捨てて、毎日必ず1時間半の音読。もともと英文の音読は好きでしたが、それまでは単語帳の重要性を強

く言われていたので音読ばかりやる わけにもいかず歯止めがかかってい たんです。でも、グノでは思う存分 やらせてくれたのでひたすらやりま した。それで、その後のクラス分け テストでα1に、最終的にはαまで 上がれました。

藤田: 一日30分くらいの音読とシャドーイングくらいしかやっていなかったのですが、高3の春くらいには、洋画でも英語の字幕があれば支障がなくなったし、先生に勧めてもらったTED***も分かるものがどんどん増えました。もちろん模試でも点が取れるようになって、英語力自体が底上げされた感じです。

林:私も音読が一番いい勉強方法だ と思っていて、グノの教材を使って

繰り返し、繰り返しやっていました。夏休みなどはグノの教材一学期分を数日間かけてすべて復習したり、徹底して音読をするようにしました。特徴的な単語や語法がどのプリントに登場したかまで思い出せるようになり、その頃には、読むスピードも格段に速くなっていました。音読は中学からやってきましたが、それが開花したのは高3の一年間だったと思います。一番がんばったのも高3でしたし、伸びたのも高3でした。

近藤: グノに入った時には、自分の問題は単語力で、文法は大丈夫だと思っていたんです。ところがグノの授業を受けてみたら穴がいくつもあることに気づきました。その穴はグノの教材で埋まり、高2の中頃までには単語力もついて、読むスピードも問題を解くスピードも上がりました。高3では、日々の勉強は音読をしながら授業

の復習をすることくらいで、他科目に時間を割くことが できるようになっていました。

川手:伸びたと思ったのは高2の秋くらいです。高1の頃は音声教材もほったらかしで、なかなか成績も伸びなかったのですが、高2になって音声教材と音読を積極的にやるようになって、高2の秋の試験で上のクラスに入ることができました。

策駒は高2の1月に初めての実力試験があります。そこで英語の成績がかなり良くて、学年の半数ほどが東大専門塾に通っているという状況で、宿題に追われている彼らの上に行けたというのはかなりの自信になりました。また、高3になって初めて外部の模試を受けたのですが、かなり時間が余りました。グノに通っていれば、英語を前から読めるようになるので速度も上がり、スピードが上がれば、どんな形式の試験にも有利になることを実感しました。

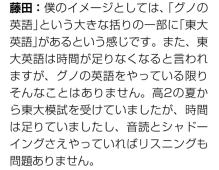
梶:まず高2の秋にαクラスに上がれて、校内の模試でも上位50人に入れるようになったので、「力がついたな」と確信しました。僕はもともと復習より前に、まず授業に集中して、そこで吸収できるものは身につけてしまおうとするタイプなのですが、グノでは集中できる環境が整っていたことも大きいと思います。

岩垂: 私も高3になってからは他教科に追われて英語の復習に時間が使えなかったのですが、グノは授業に集中しやすくて授業で得られるものも多い塾なので、授業に集中して力を維持していました。高1からグノに通っていたので基礎ができていたということも大きいかもしれません。単語帳についても話しておきたい

のですが、グノは単語帳を使わないことを勧めますが、 学校ではほとんどの人が単語帳で必死に覚えていました。 私も最初はかなり心配しました。でも、グノのやり方を 貫いたことで結果的には高3になった時点で、単語帳に かじりついて勉強していた人たちよりも、自分で使いこ なせる英単語はうんと多くなっていたと思います。

東大英語とグノーブル

村上: グノの高3の授業も、東大の試験も、要約から始まります。また、どちらも大量の英文を読みこなさなければなりません。どちらも表面的な理解では解けません。グノの授業と東大の英語は重なる部分が結構あると思います。



より高度な次元で本質的な英語を学ぶグノの英語をやっていれば、その括りの中に東大英語もあると思うので、内容はもちろん、量やスピードなど、東大を受験して困ることはないと思います。

林:グノの授業は演習中心ですが、厳しい時間配分の中でレベルの高いかなりの量の問題を解くので、とてもいい訓練を毎週していたのだと思います。 近藤:東大の英語は形式が毎年マイナーチェンジする部分もありますが、グノの英語は東大に特化し過ぎている

分もありますが、グノの英語は東大に特化し過ぎているわけではなく、東大英語とリンクする部分も含みながら、より高次の英語力を総合的に高めていこうというコンセプトだと思うので、本番で出題形式が変わっていることに気づいたとしても焦ることなく取り組めます。逆に、東大向けの受験英語をみっちりやってきた人は、それまでの傾向から外れた問題が出たらあわてるかもしれません。

川手: 英文の難易度は東大よりグノの方が上ですが、僕はそこが重要だと思いました。というのも、本番の時は緊張もあって実際よりも難しく見えてしまうものです。

事実、模試で点数が良くても 本番で失敗した人はたくさん います。東大の問題より難し い問題に慣れていた方が緊張 していても対応力は高まると 思います。

梶:グノでやったことは東大の試験で確実に役立ったと思います。演習時間に対して英文の量は常に多く、クラス分けテストに至っては問題を解き終えるだけでもギリギリでした。それに比べたら東大英語は余裕を持って臨むことができました。レベル的にも、読解はもちろん、文法も作文もグノでの演習をこなしてい



藤田 浩之助 さん (文1・渋谷教育学園幕張)

村上 陸人 さん(文III · 麻布)

れば確実に得点できるようになりますし、リスニングはグノの方が圧倒的に難しかったです。

岩垂:要約も英作もグノでは毎週みっちりやっていただけたのは本当に良かったです。どちらも添削をしてもらえないと一人では勉強しづらい分野です。

私は、英作を最後に書く主義でしたが、本番では慎重になり過ぎて英作にあまり時間が残せませんでした。少し焦ったのですが、「いつも通りやれば大丈夫」と自分に言い聞かせて問題に入りました。毎週続けてきたことだったので、本番でもしっかり力を発揮できたと思います。

岩垂: どの先生方も、先生としてはもちろん、人間として尊敬できる方ばかりでした。毎週私たちの答案を添削してくださるのも、大変なことだと思いますし、相談にもいつもその場で対応していただけました。センター型の模試で点数が取れなかったり、リスニングが伸び悩んでいたり、その他にもちょくちょく先生に相談させていただきましたが、どんな時でも親身になって考えてくださり、的確なアドバイスをしてくださいました。

梶:生徒としては失礼な言い方になるかもしれませんが、 グノの先生は本当に優秀だったので、「ついていこう」と いう気持ちになりました。英語の能力はズバ抜けていま

> すし、教え方もテキパキしてテンポが良く、 深い教養を持っていらっしゃるんです。

> 言い方が適切ではないかもしれませんが、 生徒は授業を受けてあげる側だとも言える ので、先生に対してそれなりに求めたいと いう気持ちを持つこともあります。その点、 グノの先生は尊敬できました。

> 具体的なお名前を上げさせていただくと、高2で僕は最初 α 3だったんです。そのときに秋好先生と出会い、その後 α まで上がり、高3で中山先生、本原先生に指導していただき、どの先生も個性的なんですけれど、先生として非常に素晴らしくて惹きつけられたという点では変わりません。

川手: グノの先生方は、グノで教えることが大好きなんだろうなと常々感じていました。だからいつも情熱的に授業をされます

***さまざまな分野の人物がプレゼンテーションを行なう世界的なイベント。インターネット上で動画が無料配信されている。

*入学直後1年間の特別休学期間を取得し、ボランティア活動や国際交流活動など社会体験活動を行う自己教育を支援する仕組み。 **教養学部と交換留学の協定を結ぶ海外諸大学に1年間学生を派遣する交換留学制度。

林 眞子 さん(文1・桜蔭)

し、質問にも丁寧に答えてくださいます。収益を第一に 考えている塾で、収入のために教えている先生の授業と は違うと感じていました。

僕ら生徒の方も先生のことをしっかり見ていて、「この先生でいいのだろうか」「この塾で大丈夫だろうか」と考えているわけです。求めているものと違っていれば迷うことなく塾を変えます。僕がグノを続けたのは、先生のことを心から信頼できたからです。



岩垂 佑佳 さん(文1・女子学院)

近藤:高1、高2の頃に関田先生にお世話になり、クラス分けテストでクラスが落ちてしまったことがあります。その時の添削の答案に「待っていますから、次のテストでがんばって上がってきてください」というコメントをいただいたんです。それは大きな励みになりました。

関田先生はかなり駄洒落がお好きなんです。一方ではとても真面目な先生もいらっしゃって、先生はそれぞれに個性的ではありますが、英単語を語源から説明してくださるところや英文を前から解釈していくといった基本はどの先生に教わっても変わりません。また、教えてくださる姿勢が熱心なことも変わりません。そこが素晴らしいと感じていました。

林:先生方は授業をしている時いつも楽しそうでした。 授業の内容は難しいし、添削されて返ってきた答案に ショックを受けることもよくありました。でも、先生 が英文の内容について、「これにはこんな背景があります」 とか、「この表現からはこんなことが読み取れますね」と か、時間が許せばいつまでも話し続けそうな勢いで解 説されている姿を見ていると、教養を身につけること



梶 颯人 さん (文I・開成)

は楽しいことなんだと思って、授業に引き込まれていま した。

フレンドリーな先生方なんですけれど、持っている知識は深くて、教え方が上手で、距離は近いんですけれど緊張感もあって、ひと言で言えば、とっても楽しい授業が受けられました。

藤田: 授業をあれだけのスピードで進められるし、質問の受け答えもスムーズで、頭の切れる先生たちだなというのが感じられて、それが信頼できた一番の理由です。

それから、先生の生徒への接し方も大きかったです。 グノの先生は生徒を一人の人として尊重してくださる んです。上下関係を持ち込んで生徒のことを呼び捨て にするようなことは、グノの先生には絶対にありません でした。



川手 魁 さん(文Ⅱ・筑波大附属駒場)

村上: グノの先生は本当に紳士的です。必ず敬語で話しかけてくださるなど、自分が一人の存在として認められていることを実感できました。それは授業中もそうですし、質問に行っても同じでした。

僕は受験勉強を始めたのが遅かったので、最初のクラスは一番下でしたし、クラスが上がってからも、その中ではダントツに落ちこぼれだと思っていました。初歩的な質問に行ったことも何度もありましたが、それでも、「何でこんなことも分からないんだ」という対応は一度もされたことがありません。なぜ理解できないかまでさかのぼって、いつも丁寧に説明してくださるなど、とことん生徒を大事に考えてくださる先生たちに心から感謝していました。

藤田:数学の長澤先生への感謝も述べておきたいと思います。長澤先生はもともと文系出身だからか、考え方を言葉で黒板に書きながら教えてくださったんです。数学的な論理を言葉で説明していただけたのは僕にはすごく分かりやすかったです。

長澤先生は、僕が間違えやすいところもよく分かって くださっていたし、僕に合わせて問題も用意していただ けたので、どんどん数学の力がつきました。数学をやる 上で当たり前の考えをしっかり教えていただけて、「当 たり前のことを当たり前にやれば、東大の文系数学なら 当たり前に解けるようになる」という自信にもつながり ました。とても感謝しています。

映像授業とライブ授業

村上:映像授業は1回だけ受けたことがあります。「テレビの中で、なんだか授業をやってるな」という感じで、参加しているという気持ちになれませんでした。

藤田:巻き戻せば何度でも見られると思うと、集中できなくて寝てしまったこともあります。ライブの授業なら、「聞き逃すわけにはいかない」という緊張感があるので、ライブの授業の方が絶対にいいと思います。

林: 映像授業も大人数の授業も受けたことがありますが、 その二つの差は感じません。グノぐらいの規模でやるか らこそ先生との距離も近いですし、周りの人の存在も意 識することができるのだと思います。

近藤:僕は、スタジオで先生が一人で話す映像授業と、 教室で生徒を前に授業をしている映像授業の両方を受け たことがあります。二つを比べただけでも後者の方がま だ臨場感を感じることができたので、それが実際にライ ブだとなわさらです。



近藤 卓司 さん (文II・麻布)

またグノの場合は授業中に質問をしてもおかしくない 雰囲気があるので、より参加しやすいと思いました。授 業中の質問については、「授業中の質問はご遠慮ください」と貼り紙がしてある塾や予備校もあるくらいです。 映像かライブかということだけではなく、あらゆる面を 考えてもグノの授業は参加型授業の良さが凝縮されてい たと思います。

川手: 当てられるのとそうでないのとでは大きな違いがあると思います。自分が分かっていると思っていることでも、当てられると上手く説明できないことがあります。実はよく理解できていないとあらためて気づかされることになるんです。当てられないと分かっていると、自分が知っているところは聞く気すら起こらなくなるので、思わず他の事を考えてしまいます。

梶:高3の春期に世界史で映像授業を受けたことがあり

ます。先生も有名な方で独自の観点を織り込んで授業をされて、まあ面白い授業ではありましたが、それ以降は映像授業を受けようという気になりませんでした。見れば得るものがあるとは思っても、やる気を出すのが大変で。

岩垂:数学で受けたことがありますが、ジュースを飲みながらリラックスして見ていたら、いつの間にかウトウトして聞き逃してしまったり、集中するのが難しいと思いました。

後輩たちにアドバイス

岩垂: 英語に関しては、グノの先生のおっしゃることをしっかりやっていれば、東大に限らずどこの大学を受けるにしても大丈夫だと思いますし、何か心配事があるのなら先生方に相談すればいいアドバイスやヒントをいただけるはずです。

受験全般について言えば、最後まで絶対に諦めないことが大切です。実は私も夏休みを終わった頃に一度諦めかけて受験校を変えようとしましたが、そこで何とかがんばって自分の目標を達成することができました。

あと、周りに影響されないことが大事です。グノでも 学校でも、私の周りにいる人はとてもよくできる人だっ たので、その人たちと自分を比較してネガティブな気持 ちになったこともありましたが、あまり自分と他人を比 較し過ぎず、自分のペースで計画を立ててやっていくこ とが大事だと思います。

梶:東大の英語に関して言えば、5つの大問があって、その中でもここは絶対に取れるということが分かってくれば自信がついてくるんじゃないでしょうか。それは受験科目全体で考えた時でも同じです。

また受験勉強全般では、メリハリをつけることが大事だと思います。やるべきことをやったら、気を抜く時間もあっていいと思います。僕自身、勉強時間は人に自慢できるほどやっていませんが、やるべきことを自分で分かっていることが大事だと思っていました。

川手: グノの英語に関しては、毎週予定を立てて勉強をすることです。宿題が多くありませんので授業の前日に



林 眞子 さん (文1・桜蔭)

慌ててやるといったことになりがちです。僕は、何曜日にはこのテキスト、何曜日までには英作文をもう一度書いておこうとか、計画的に勉強をしていました。

受験全体では、自分のペースでやるということじゃないでしょうか。人がこれをやっているからとか、何時間やっているからとか、他人のペースに惑わされず、成績が伸びているなら自分のペースを守り続ければいいし、工夫の余地があるなら改善すればいいし、自分を基準にしていくのが効果的だと思います。

気分転換は僕も大切だと思います。僕はセンターが終わった翌日、特急に乗って遠出をしてきましたが、ずっと勉強しているより、気分転換をするときはする、その代わり、勉強をするときには集中する、というやり方がいいと思います。

近藤:高1、高2の人は主要科目を固めることが先決だと思うので、高3になった時に理科なり社会なりに力を注げるような基礎固めをしておくといいと思います。

高3では数多く問題を解くことが大事だと僕は思っていたので、演習を積んで自分の弱点を見つけて、それを埋めていくという勉強が本番では活きたと思っています。

受験全般では、グノの先生なり学校の先生なり、信頼 できる先生の話を聞くのは大事ですが、それを鵜呑みに するのではなく、自分でしっかり考えて、それぞれのい いとこ取りをしながら自分の勉強法を確立していくとい いと思います。



藤田 浩之助 さん (文[・渋谷教育学園幕張)

林:私は、音読は以前から続けていましたが、シャドーイングができるようになったのは高3になってからです。やろうとしてもずっとついていけなくて、それが突然「あ、できるな」と思えるようになったのは高3になってからです。シャドーイングと音読の両方をやるようになった時期から、読む時も聞くように読めるし、聞く時も読むように聞けるという感じで、感覚の差がどんどん埋まっていき、「これって英語ができるようになっていることかな」と思っていました。音読とかシャドーイングのような基礎トレーニングを欠かさずやることが英語力を伸ばすために必要なことではないでしょうか。数学も、解法のパターンを身につけるとか基礎が大事

なので、基礎を疎かにしないでいただきたいと思います。

あと、大学に行くのなら学問を面白いと感じられることが大切だと思います。受験のための勉強をしていても、 どの科目でも新しい発見があるはずなので、「なるほど!」 と思える気持ちを大切にして、楽しんで勉強していただきたいと思います。



村上 陸人 さん (文Ⅲ·麻布)

村上:全体を見て自分がどこにいるかが分かっている人は勉強の効率がいいと思います。同じ学年の中で自分の位置が分かっていることもそうですけど、合格に至る道のりの中で今自分が何をすべきかが明確に分かっている人は、やっぱり効果的に勉強ができると思います。

そのために、まず大学の要求というか、何をどのくらい勉強すればいいのかを知ることが大事です。それから自分を見つめて、自分のことを知って、自分だったらこうすればいいな、という自分のやり方を知って実行するのがいいと思います。たとえば僕の場合だったら、長時間勉強するのは苦じゃなくて、一日10時間の勉強もできることが分かっていたので、受験勉強は高3にまとめていました。

藤田:大学受験は人それぞれの勉強のやり方があると思います。長時間がんばれる人は、部活や学校行事を優先して、受験勉強は高3から始めて一日10時間やってもいいと思いますが、僕は一日10時間も勉強できないと分かっていたので、高1くらいから一日3、4時間のペースを3年間守ってやってきました。

精神力について言えば、僕の場合は、緊張して実力を 発揮できないこともあると思ったので、合格ライン以上 の力をつけようとがんばっていました。でも、本番に強 い人なら、D判定とかでもきっと全然大丈夫なんだと思 います。それぞれ自分の性格を把握して、自分に合った 勉強のやり方を見つけることが大事だと思います。

8期生 合格者インタビュー

東京大学

理系

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



^{おかざき やすなお} **岡崎 恭直** さん
(理 I・駒場東邦)



かなもと **金本 啓** さん (理 I・開成)



くりやま たいせい **栗山 大成** さん (理 I・開成)



さくらい りょう **桜井 瞭**さん (理Ⅱ·駒場東邦)



すみの はやと **角野 隼斗** さん (理 I・開成)



 す嶋
 験

 支付

 中嶋
 財場東邦)



*** **創梧** さん (理 I · 駒場東邦)

Part 2



世ルゴく たかし **伯石 宇** さん (理 I・麻布)



森 **圭太** さん (理 I · 学習院)



ました たかひろ 吉田 崇裕 さん (理I・筑波大附属駒場)

8期生 合格者インタビュー東京大学理系

Part 1

開成ではグノといえばやっぱり英語の塾というイメージだと 思うんです。でも、ここにいる3人が開成の模試で数学の上位の成績を取り始めたことで、 「グノは数学もいいんじゃないか」という雰囲気になりつつありました。

岡崎 恭直 さん(理1・駒場東邦)

栗山 大成さん(理1・開成)

駒東生4人の入塾のきっかけ

中嶋:高1になる直前の春休みにフレッシャーズ講座を受けて、授業の素晴らしさを実感したのがきっかけです。 東大専門塾という選択肢もありましたが、東大英語に特化した勉強をすることに疑問もあり、桜井君とも相談して授業の印象が良かったグノーブルに決めました。

桜井: どちらかというと中嶋君に誘われて、いっしょなら塾に行くのもいいかなと思ってグ

ノの講習を受けてみたら「これだ!」という手応えを得ました。当時、英語に関しては勉強の仕方がよく分かっていなくて、成績も安定していなかったのですが、グノのやり方ならいけると思いました。

森: 僕はその1年後です。高2のは じめに、漠然と「英語の成績を上げ たい」と思って入りました。駒東は 歴代グノに通っている先輩も多く、 「英語といえばグノーブル」という評 判も定着していましたし、中嶋君や 桜井君はじめ、友人も大勢グノに 通っていたので、いっしょに通える のでいいかなと思っていました。

岡崎:僕が英語の塾を探し始めたの は高2の終わりです。それまでは部

活のサッカーをかなり真剣にやっていました。駒東では 友だちに塾のことを聞けば、自分の通っている塾に満足 している人はいろいろ話もしてくれます。高3になると きだったので、「ここで確かな塾を決めないとまずいな」 という思いもあり、教材も見せてもらってかなりきっち り調べましたが、グノに通っていた人たちの満足度が高かったので、ここなら大丈夫だと思えました。

おかざき やすなお **岡崎 恭直** さん (理 [・駒場東邦)

東大に志望は固めていましたが、東大受験のための英語ではなくて、「英語」をちゃんと学びたいと思ったのもグノにした理由です。将来は海外で学びたいという希望を持っているからです。

開成生3人の入塾のきっかけ

金本: 高校に入ってから英語の成績が落ちてきて、学校で赤点をとったこともあって、「これはヤバイな」と。周りの人が通っていた英語の塾は宿題がとにかく多く、そこは自分には無理だと思いました。他を探しているうちに知ったのがグノーブルでした。

ついでに数学も入室テストを受けてみたら、数学は一番上のクラスに入れるって言われたので、英語と数学を同時にスタートさせました。その後、高2の夏の開講と同時に物理もお世話になりました。

角野:以前通っていた塾は自分に合わない気がずっとしていて、ネットで塾を調べたところ、「グノーブルがいいらしい」と。あくまでもネッ

ト情報でしたが、他の塾には今ひとつピンとくるものが 感じられず、その点グノには期待させてくれるものがあ りました。移ったのは高1の冬です。

最初は英語だけを考えていたのですが、英語でこれだけ評判がいいなら、きっと数学もいいに違いないと思い、

数学も一緒にお世話になることを決めました。予想通り グノは自分に合っていたので、高2の夏には、そのとき 開講した物理にも通いました。

栗山:僕も以前の塾が自分には合ってなくて移ってきま

した。グノにはすでに角野 君も金本君も入っていたし、 ネットでも評判が良かった からです。高2の初めです。

その頃の英語の成績はかなり悪くて、どの大学を受けるにしても英語は大事なのでグノに賭けてみようと思いました。勉強のスタイルが僕にあっていると思え、英語と同時に数学もお世話になることにしました。

開成ではグノといえばやっぱり英語の塾というイメージだと思うんです。でも、ここにいる3人が開成の模試で数学の上位の成績を取り始めたことで、「グノは数

学もいいんじゃないか」という雰囲気になりつつありました。

金本: 開成でも最近はグノに入る人が増えてきたように 思います。僕も後輩に3科目とも勧めています。

英語の授業で感じた驚き

森: なんといっても授業内添削が特徴的です。毎回、演習があって、解いたその直後にすぐ添削してもらえるの

で理解度が上がります。自分がクラスの中でど のくらいの位置にいるというのも出してもらえ るのでモチベーションも上がります。

他の塾で、授業内に演習をやって、その場で 添削をしてもらえて、すぐに解説が受けられる というのは聞いたことがありませんし、学校で も時間的に不可能です。

中嶋:添削のレスポンスの早さにも驚きましたが、 僕が一番驚いたのは、1回の授業で扱う英文の 量です。最初は読むスピードも遅くて演習時間 内では解き終わらなくて「ヤバイな」と思ってい ましたが、でも、そこから「もっとがんばろう」 という気持ちになりました。グノに初めて来た 人はたいてい量に驚いて、「これ無理でしょ」と 思うはずです。でも、先生のおっしゃるやり方 で復習を重ねているうちに、だんだん正確な速 読力がつきます。



金本 啓 さん (理I・開成)

角野: 英単語を語幹までさかのぼって覚える方法は「面白い!」と思いました。それまでは英単語は暗記するものだと思っていて苦痛でしたが、一気に英語が楽しくなりました。

桜井: 僕もグノに入るまでは、英単語は単語帳でひたすら覚えるものだと思っていました。語源から説明していただいて、英文を繰り返し読むことで文脈の中で身につけていくやり方を学んで、英単語の定着の仕方が劇的に変わりました。

栗山: 僕は暗記が嫌いなので、単語帳の暗記はやらなくていい、というか、むしろやってはいけないと言われてとても救われた気持ちになりました。語源から単語を教えてもらえると、一つひとつの単語のインパクトも変わりました。

あとは音読中心の復習方法です。それまで英語の勉強といえば、「単語帳を覚える。 もっと問題を解け」というもので、やることが山積みでしたが、グノの場合、授業の復習を一通りやって、後は音読をしていればいいんです。音読をしていると自然に授業

で習ったことが頭に入ってくるので、復習するのが全く 苦にならなくて、グノの勉強法は本当に僕に合っていま した。

金本:初めての授業の時は、英文を読んでも半分くらいは分からない単語ばかりで、あちこち虫食い状態で暗い気持ちになっていました。ところが、授業中に先生が英単語をどんどんピックアップして語幹から説明してくれるのを見ているだけで、それがものすごく新鮮でした。英語の授業に出席してワクワクする気持ちを持ったのは

初めてなので、初回の 授業で「ここに入りたい!」と強く思いました。 **岡崎:**高3で初めて受けたクラスの中で、多分、 僕一人が新入生だった んです。先生も当然僕 を知らないだろうと思っていたら、最初から僕 を名前で当ててくれて、 それには感動しました。

そのときに扱った英文の内容にも驚きました。つい最近ニュースになっていたことが教材になっていて、最初から興味津々という感



栗山 大成 さん (理1・開成)

じで授業に入れました。

楽しみながら英語を学ぶ

岡崎: 先生が僕たちのために英文を選んできてくださるので、教材自体が関心の対象になりました。そんなことは、ちょっと考えていなかったことで、これも、「グノの英語は楽しい」と言われる理由じゃないでしょうか。僕は科学の話題が好きなので、そんな話題をよく取り上げてもらえて楽しかったです。科学的な話題を、しかも「へぇ、そうだったのか」と引き込まれる話題を英文で読めるというのは新鮮で面白かったです。

金本: 英文の内容は本当に良かったです。ちょっとした 理系的な雑学とか、最新の研究成果を読んでいると、本 当に「へぇー、そうだったんだ」と思って読めるんです。 興味の持てない英文を読まされるのとは全然違います。

今日はどんな文章だろうと思いなが ら授業に臨めました。

栗山: 英文の内容がホットだったのは本当に良かったです。環境問題とかべタな話題でも、ホットな記事だと引き込まれます。興味を持てる英文だと復習も楽しくなって、それもとても良かったです。

桜井: 先生が話してくれる英文の背景にも興味を持っていました。教材の中には過去の時代を扱ったものもあって、その時代背景はどういうものだったのかとか、その頃の思想はどんなものだったのかなど、先生がいろいろ話してくださるので、理解も深まりましたし、教養まで高められていく感覚が好きでした。

角野: 僕はそこが授業の大きな楽し

みの一つでした。用意してくださる教材は理系のものばかりではないし、分野はさまざまで、自分で読んでもピンとこないものもありました。ところが、先生が一歩踏み込んだ解説をしてくださると、どの教材も興味が持てるものに変わりました。

桜井 瞭 さん (理Ⅱ・駒場東邦)

中嶋: 以前はあまりニュースを見てなくて、時事問題にも興味がありませんでしたが、グノの英文で扱った時事的テーマには自然に興味を持てるようになりましたし、もう少し深く調べてみようという気持ちにもなりました。以前は知らないことが多過ぎて興味の持ちようがなかったのかもしれません。

森:中山先生が授業で、大人が読む英文は、ピラミッド の頂点の部分に過ぎなくて、その下にあるべき知識や教 養がないと英文を理解することはできないとよくおっ しゃっていて、とても納得していました。

先生は、その土台になっている部分を毎回解説してくれて、そうすると僕たちにも英文の全体像が見えるようになるんです。そういう経験を積み重ねて、僕たちが一人の力でも読めるものを増やしていただいていたのだと思います。

英語力がついた時期

桜井: 以前は単語力がなくて、問題を解くのも苦しみながらやっていたのが、グノで英語を学ぶようになって、いつの間にか分からない単語も前後の文脈から理解できるようになりました。英文を読むことも苦にならないし、スムーズに問題が解けるようになって、「これは力がついているかな」と思っていました。

やっていたのは音読中心です。授業でかなりの量の英

文に触れますし、家で何度も復習するので相当量の英文に触れることになります。その積み重ねが大きかったと思います。

栗山: グノに入ってすぐに「伸びた」と感じました。もともと英語が苦手で、英文は何も読めない状態だったので、高2の初めに入って、そこから12月ぐらいまではうなぎのぼりでした。学校でも平均より上の成績が取れるようになりました。もともと英語の知識がなかったところに、グノで吸収したことが使えるようになったことが理由だと思います。

高3でα1*に上がって、秋頃にまた、「伸びてるな」と思いました。この頃に、英文を前から読んで意味を取っていくことが自在にできるよう

になったからです。いちいち日本語に変換しなくても意味が取れる分、英文を理解するスピードが上がりました。 金本:高2の頃は授業を受けっぱなしの状態で、高3の春にあったクラス分けテストでクラスが落ちてしまったんです。毎日必ず音読を始めたのはそこからです。秋になって、高3初めに配られたプリントをもう一度読み返したら、以前読んでいた時よりも細かいところまで理解できるようになっていて、その時に復習の効果が出て英語力が伸びていることを実感しました。

中嶋:高2の冬から高3の夏にかけて学校で英語の成績が低迷していたんです。理由ははっきりしていて、他科目に時間を取られ、グノの復習をサボっていたからです。「ヤバイな」と思って復習をきちんとやるようにしたら、どんどん成績も上がって12月頃には学年で4番の成績

を取れて、「これは復習 のおかげ」と強く実感し たことがあります。

急激な変化でした。



角野 隼斗 さん (理Ⅰ・開成)

岡崎: 伸びを実感したのは高3の夏明けです。僕の場合、 音読をしていなかったわけではなく、やっていたのに上 手く結果につながっていなかったんです。それで、 夏休みに先生に勉強のやり方を相談しに行き、 勉強法を見直して9月を迎えたら、要約でも急に 合格点が取れるようになり始めました。本当に

あと、直前期にも、もう1回伸びました。ずっと物理・化学で手一杯になっていたのですが、12月と1月に、春から配られたプリントをすべて音読し直しました。これで、英語を英語のまま読む感覚がつかめました。直前期には英文がスラスラ読めるようになって理解が深まりました。森:高3の最初のうちは要約のテストで点数が取れなかったんです。それが夏頃から少しずつ点数の平均が上がってきて、9月頃になるとそれまでほとんど取れなかった合格点が取れるようになりました。それは、勧められていた音読を毎日きちんとやるようになったからだと思います。すぐには効果が出ませんでしたが、じわじわと、

確実に力がついて行きました。

東大英語とグノーブル

岡崎: グノの英語は東大よりも要求が厳しいと思います。 東大の過去問を解いた時も時間的に余裕があって、「これならいける」と思いました。グノの演習の方が難度的 にも時間的にもつらいです。

ただ、グノの授業は適応範囲が広いと思います。グノ の勉強をやっていれば、学校の試験にも、東大の問題に もしっかり実力が現れます。防衛医大も受験しましたが、そこでも結果を出せました。

金本: 東大の英語で問われているのは、英語がきちんと読めるかどうかだと思います。グノの場合は、英語を言語として捉えて、受験のテクニック以前に英語力を上げることに力を入れているので、東大英語に通じるところがあると思います。

僕も東大の問題を解いていて時間が足りないと感じたことはありませんが、グノの演習だと、「え、もう終わりですか。まだ読んでる途中なんですけど(笑)」というのが普通でした。

桜井: 僕もグノの読解の演習で時間内に解き終わることは最後までありませんでした。先生が授業中に、「速さを求めてはいけない。正確に読もうと心掛けることが大切。復習のやり方が正しければスピードは結果としてついてくる」とよくおっしゃっていましたが、膨大な量の英文を、

正確に読む訓練ができて、東大の過去問なら比較的余裕 で解けるようになっていました。総合的な力がついたと 思います。



中嶋 駿さん(理[・駒場東邦)

栗山:グノでやっていることが、英語の総合力を上げるというのは僕も実感しています。僕は最後まで胸を張って「英語が得意です」とは言い切れなかったんですが、授業で学んだことをしっかり復習したおかげで、東大でも対応できたのは事実です。

角野:総合的な力という意味では、要約は総合的な力が試される問題だと思います。英文が表面的に読めているだけではもちろんできないし、主旨を見抜い

て、全体の流れが分かった上で、それをまとめるのも結構大変で、そんな訓練を毎回やっていたのがすごく大きなアドバンテージだったと思います。毎週の積み重ねで、東大の本番もスムーズに解けました。

中嶋:要求されるスピードも、内容自体もグノの演習の方が上です。過去問や模試ではいつも、5分、10分余るようになっていましたから、東大の本番も自信を持って受けられました。

森:グノの特徴である、英文の意味を前から取っていく

*Zの学年の英語は、 α (最上位)から、 α 1、 α 2、 α 3までのレベル設定でした。

ということができるようになると、読むスピードが格段に上がります。早く読み終わると、問題をしっかり考えることに頭を使えるようになりました。東大は量も多いのですが、深く考えることが必要な問題もあるので、その意味ではグノのやり方に慣れていると有利だと思います。

グノーブルの数学・物理

金本:高2の時に物理開講のお知らせをもらって、それまでグノの英数で手応えを感じていたので「物理も間違いないだろう」と思いました。

特徴的だったのは、身近な現象と物理との結びつきを重視していた点です。身近な現象から話が入っていくのはちょっと小学生の理科みたいなんですけど(笑)、確かに常に興味を持って学べたと思います。結果として物理は得意科目になって得点源になりました。

数学の手塚先生は、授業での説明が分かりやすいし、書いてくれる解説も読みやすいんです。頭の中がきれいに整理されていく感じでした。

長澤先生の授業は、「行動原理を持

て」と言われ、ノートもいっぱい書かされたので、「何だ、この授業は」と、最初はちょっと戸惑いました。でも、問題を解くときに、なぜこういう見方をしたのか、なぜこのアプローチなのかを意識することの意義を早い段階で教えていただけたのはとても良かったです。

栗山: 手塚先生の解説は本当に分かりやすいんです。先生が説明してくださると「え、こんなもんなの?」と少し拍子抜けするぐらいに明快になるんです。おかげで数Ⅲ Cに関してはかなり自信が持てるようになりました。

角野: 手塚先生の良さは、とてもフレンドリーで話しやすいところにもあります。先生と話していると息抜きにもなりますし、数学にますます前向きにもなれます。長澤先生は、この問題にはこの解答という、よくある一問一答のような説明をなさらないので、どんな問題にも対応できる力をつけていただいたと思っています。

物理は、僕も開講時から取りました。大学受験にこだわった内容ではなく、ときには大学の範囲にまで踏み込んで、物事の現象の本質を理解することを重視する授業だったんです。しかも身近なところから説明が始まるので分かりやすくて。最初は苦手だった物理が本当に伸びました。物理の1期生で少人数だったということもあったのかもしれませんが、先生方には丁寧に教えていただ

いたので感謝しています。

森 創梧 さん(理 [・駒場東邦)

グノーブルの先生たち

森:初めての先生は秋好先生でしたが、最初から名前を呼んでいただけたことがとても嬉しかったです。塾に入ったばかりのときは誰でも緊張していますし、僕はどちらかというと内向的なので、先生が名前を呼んでくださる

ことで安心できました。

栗山: クラスがα1に上がって最初の授業で、先生が僕の名前だけじゃなくて学校も知っていてくれて、驚いたし嬉しかったですね。その上、学校の先輩たちのことで先生と話が盛り上がって、グノは先生と生徒の距離が近いという噂は前から聞いてはいましたが、そこまで生徒たちのことを把握してくださっているとは思いもしませんでした。

金本: グノの先生は、一人ひとり のことを本当にちゃんと見ていてく ださいます。たとえば、物理の小テストを採点してくれた後で、先生が 僕だけに、欠けているところを補えるプリントをくださいました。

英語だと、僕が前の週に当てら

れて間違えたところで、次の週また当てられました(笑)。 見抜かれているし、覚えられているんです。先生が一人 ひとりの状態を把握しているのはすごいなと思いました。



岡崎 恭直 さん (理1・駒場東邦)

岡崎: 僕は本原先生の英作文の添削コメントに励まされていました。最初の頃は全然書けなくて、毎回のコメントに励まされながら注意点を学び、何カ月もかかってだんだん書けるようになりました。最後の方は満点がつくこともあって自信になりましたけど、本当にずっと先生がそばについてくれている感じでした。

中山先生に対しては、最初は、塾の代表だから厳しくて怖い先生なのかなと思っていました。まるでそんなこ



金本 啓 さん (理Ⅰ・開成)

とはなくて、いつもパワフルで、すごい知識をもとに楽 しい授業をしてくださって、恰好いいなと思っていまし た。自分も先生みたいに幅広い教養を身につけていきた いなと思いました。

中嶋:グノの先生には、一緒にがんばってくれている、という印象をいつも持っていました。毎回の添削でもいい点数が取れないと、先生に対して「申し訳ない」という気持ちにもなりました。悪い点数が続いても、決して手を抜いたり見放したりすることなく、きっちり添削をしてくださるので、「もっとがんばって期待に応えよう」という気持ちがいつでも心の片隅にありました。

角野: 先生の熱意が伝わってきますし、あと、教えていることを先生も楽しんでいるんだな、というのが伝わってきて、それで自分も楽しくなって気がついたらモチベーションも上がっているという授業でした。 グノならどの 先生にも共通して言えることです。

桜井: グノの授業は明るいんです。高3になると、量も多くて授業時間も長くなり、実際には疲れているはずですが、先生がたまに冗談を言ってくれたり、英文の背景を楽しそうに話しているのを見ているうちに、疲れに気づかずがんばり通せました。

映像授業とライブ授業

岡崎: 僕は、先生が自分のことを見ていてくれて、強み や弱点まで把握してくださった授業だからこそ実力を伸 ばすことができたと思っているので、生の授業の方がい いと思います。それに、当てられる緊張感があるから選



栗山 大成 さん (理1・開成)

択肢を選ぶときにも真剣になれるし、一人で映像を見ながらの勉強ではそういう緊張感はありません。

金本: オンラインの授業は隙間の時間が使えるし、どこでも見られるメリットもありますから、科目によってはオンラインも利用価値があると思います。

栗山: 先生と向き合って授業をするのと、画面と向き合うのとでは緊張感や集中力がまるで違います。ただ、グノの場合は少人数制だから緊張感が生まれるわけで、これが予備校のように大人数の授業であれば、変わらないかもしれません。

桜井: グノだと先生が解説するときに、自分たちの反応を見て、どこまで解説するかを考えながら授業をしてくださったので、自分のレベルに合った解説を受けることができました。また、添削の後に点数を黒板に書いてくださったので自分の位置を確かめることもできました。こういう授業はサテライト授業や大人数授業では無理ですね。



桜井 瞭 さん (理Ⅱ・駒場東邦)

角野:オンライン授業は、参考書のように使えば利点はあると思います。でも、グノに通う意味は、先生から当てられたり、質問にも自由に行けるところにあります。 僕の場合、物理は特にいっぱい質問していたので、先生がすぐに対応してくれる環境でなければ勉強できなかったかもしれません。

中嶋:グノだと、周りの人が演習していくスピードも感じられるし、当てられてどんな答え方をするかも分かるし、お帰り問題で早く帰っていく人も見えます。僕はそういうところから刺激をもらっていました。

森: 先生から当てられた生徒が、「正解」、「正解」と続くと、「ここで自分が間違えるわけにはいかない」というプレッシャーがあって、そういうのはマイペースでやれる授業には全然ない緊張感だと思います。

後輩たちにアドバイス

森:グノには本当にレベルの高い人がいるので、周りと 比較すると落ち込むこともあるんじゃないかと思います。 でも、復習や音読など、やるべきことをしっかり続けて

いけば確実に力がついていくので、人と比較して落ち込む必要はないと思います。

中嶋: 音読を通した復習をしっかり習慣化して守ることです。僕自身、一時期、音読を疎かにした時期があって、その時は成績が下がってしまい、音読を再開したら成績が上がっていったので、音読を継続することの重要性は特に言っておきたいところです。



角野 隼斗 さん (理1・開成)

角野: グノがいい授業であることは間違いないと思いますが、復習をきちんとやってこそ本当の力が身につきます。

あと、精神的な面ではモチベーションを安定させることです。今日はむちゃくちゃやる気がある、今日はやる気が起きない、ではなくて、比較的高いモチベーションを保つようにすることが大事です。

桜井: グノに入って最初の頃は、演習量の多さに圧倒されたり、周りのレベルの高さに驚いたりすると思いますが、先生のおっしゃることを信じて復習や音読をやり続ければ、必ず力はつくし、自信を持って入試にも臨めると思うので、途中でくじけずに努力を続けてほしいと思います。



中嶋 駿さん(理1・駒場東邦)

栗山: 受験においては計画を立てることは大事だと思いますが、そのときに自分のメンタル面を考えていくべきだと思います。

僕の場合だと、物理を人より早く始めたのは自分なりの計算があったからです。まず、開成は5月に運動会があってその前は忙しくて勉強できません。数学と英語は

平均より少し上くらいで武器にはならないし、この2科目はすぐに得点力を上げられる科目ではありません。夏の模試でそこそこの成績を上げてその先のモチベーションを高めるためには、人より早く物理に取り組んでおこう、と考えました。夏だと現役生は理科の得点力がまだついていない人も多いので差がつきやすいのです。

実際に夏の模試で、物理は高得点だったので、そこから調子に乗って、数学も英語も上向いていきました。つまり、自分で自分の気持ちを良い方向に誘導するようなことも大事なことだと思います。

金本: 僕は高3の初めのクラス分けテストで、英語のクラスが α 1 から α 2 に下がってしまいました。でも、奮起して復習や音読を続けたんです。 秋頃には、上のクラスの人たちと比べても、そんなに大差はないか、あるいは自分の方ががんばっているんじゃないかと思えるようになり、それは開成の実力テストや模試にも表れていました。



森 創梧 さん (理]・駒場東邦)

つまり高3になった時点では、僕はちょっと出遅れていたわけです。でも、そこで腐らなかったことで結果につながりました。たとえクラスが下がっても、それをきっかけに努力をすれば必ず力はつくと信じてがんばってほしいと思います。

それから、質問や相談に行ける環境があるってことは 大切なので、迷った時は、すぐにグノの先生のところに 相談に行くことを勧めます。

岡崎: グノに関して言えば、授業は間違いなくいいので、 さぼらずに復習していれば自然と力はついていきます。

勉強全般に関しては、間違えた問題を避けたりせず、 ちゃんと向き合ってその原因を探って対処する心掛けを 忘れないことが大切だと思います。

僕の場合、部活もやって、体育祭もしっかりやったので、本格的に受験勉強を始めたのが夏休みに入ってからです。その時は人と比べて出遅れていたと思います。実際、東大模試もDとCしか取っていません。でも、自分を信じて、一つひとつ苦手な部分をつぶしていけば、12月、1月、2月と成績はついてくると思うので、諦めないことが何より大事です。

8期生合格者インタビュー東京大学理系

さん (理 I · 麻布)

さん (理 I · 麻布)

主太 さん (理 I · 学習院)

音田 崇裕 さん (理 I · 筑波大附属駒場)

Part (2)

数学でも、英語でも、どの先生も、

僕たちが主体的に学んでいくのを徹底的にサポートしてくださったように思います。 そこがグノの一番の良さだったと思っています。

仙石 宇さん(理丁・麻布)

入塾のきっかけ

他石: 先輩から英語は早めに塾に通った方がいいと言われて塾を探していたんです。部活もやっていたし、文化祭と体育祭の委員にもなっていたのでかなり忙しかったのですが、グノなら授業内の演習が中心で宿題も少ないと、中学の頃からグノに通っていた友人に勧められ、高1の春期を受講しました。その時はまだ4月から通うことは決めていなかったのですが、実際に授業を受けてみて独特の教え方に惹かれました。宿題も多くないので大丈夫だと思って入塾を決めました。

入った時はα2*で、かなり長い間クラスはそのままでしたが、高2の頃に文化祭の準備に時間を取られ

森: 小学校の頃からの友人に教えてもらってグノを知りました。その友人も、お姉さんもグノに通っていて、かなり強く勧めてくれたので、中学生の頃に講習を受け、通常には高1の春から通い始めました。学習院は進学校ではありませんが、僕は大学受験を考えていて、英語が得意だったので、得意な科目をさらに伸ばしたいと思い、英語を伸ばすならグノだと思っていました。ずっとバス

ケットボールもやっていたので、塾と両立できたのは良かったです。

吉田:僕は中3の冬期講習からです。中学受験のときの塾の先生が「グノーブルがいい」と教えてくださって、それを母が覚えていたんです。自分の中で「塾に行かなきゃ」と思い始めたのは、中3の2学期に定期考査の英語でヤバイ点を取ってしまったからです。実際にグノの講習を受けてみたらすごく良くて、そのまま入ることにしました。

ありがたかったのは、グノは宿題が少なく、授業の演習と復習を中心にしていることでした。高1とか高2のときは宿題が少ない方が当然嬉しかったですし、他の塾に通う友達が宿題に追われる日々を過ごしているのを見て、「かわいそうに」と内心思ってました(笑)。高3になったら

いろいろな科目を勉強しなきゃいけないので、そういう意味でも宿題が少ないのはありがたかったです。



仙石 宇さん(理1・麻布)

学校での評判

森: 僕以外にも学習院の友人が数名グノに通っていました。女子部の人も何人か通っていて、通っている人の中での評判は良かったです。

吉田: 筑駒の場合、中学の頃はグノを知らない人がほとんどでした。通っている塾のことを聞かれて僕が「グノーブル」と答えたら、「どこそれ?」みたいな反応をされたことがあります。でも、学年が上がるに連れて、グノの

^{*}Zの学年の英語は、 α (最上位)から、 α 1、 α 2、 α 3までのレベル設定でした。

英語は確実に知名度も評判も上がりました。高3になったら、「あ、お前もグノなんだ」ってことがよくありました。 **仙石:** 麻布では、グノの英語に通った人は口を揃えていいと言ってますし、僕の周りにはグノに入ってやめた人は一人もいません。すごく英語ができる人がいると、「あいつはグノだから」みたいな話になって、口コミで評判が広がっていくようなところもありました。僕自身、2、3人の友人にグノを勧めましたが、その人たちも確実に成績が伸びていました。

グノーブルで感じた驚き

森: 一番は、単語帳を使わない英語の勉強方法です。僕は結局、単語帳を一度も使わずに受験したんです。グノの場合、英単語は語源から説明してくれて、文脈の中で意味を覚えていくやり方をしますが、無理に頭に詰め込もうとしなくても自然に英単語が定着します。このやり方で、東大でも全然心配ありませんでした。

グノ以外の塾に通う友だちは単語 帳で必死になって覚えていましたが、 僕はできるだけ授業に集中して、先 生の説明を聞きながら強く印象に残 すようにしていました。グノの英単 語の説明は、ちょっと他では考えら れないぐらい面白くて、それで語彙 も自然に増えました。おかげで、英 単語を覚えることに時間を割かれず に済んだので、他教科の勉強の時間 配分を考えても、すごく大きかった です。

仙石: 僕は、ネイティブみたいに英文を読めるように指導していただいたことに本当に感謝しています。 グノに入る前には、いちいちスラッシュを引いたり、修飾関係が分かるように矢印を描いたりして日本語に訳し

ていたんです。でもグノではそんな指導はせず、文章の 頭から英文の意味を取っていくやり方で、それがとても 斬新でした。

吉田: 先生が初回から名前を覚えてくださったことには感激しました。しかも、2回目の授業から生徒全員の名前を先生が把握されていて、「こんな塾があるのか!」と本当に驚きました。

それから、グノの授業は主体的に受けることができるし、授業で扱われる情報量が多いので、眠くなることはまずないです。授業前どんなに眠くても解説が始まれば頭をフル回転させるので、眠いと感じる暇がありません。たとえば、グノは授業中に当てられるんです。当たると

緊張もするし、できれば当たりたくありませんでしたが (笑)、その緊張感があるのもグノならではのことで良かったと思います。

森:当てられるのはヤバイです。もう、ドキドキでした。なぜか自分の答えに自信があると当ててもらえなくて、自信がない時に限って当てられるんです(笑)。でも、試験の本番ってやっぱり緊張するじゃないですか。授業中のああいう緊張感はやっぱり大事だったと思います。

僕は、自分が当てられない時でも人の答えをしっかり聞いていました。ときどきスゴい和訳をする人がいるんです。バスケでも自分より上手い人のプレーを見ると、ちょっと心に火がつくのと同じで、グノのαクラスにはスゴい人が何人もいたので、その中で自分も活躍したいという気持ちは常にありました。

生徒が素晴らしい答えを言うと、先生が「ほう」って感心して誉めてくれるんです。僕も「ほう」って言ってもらいたいと思っていました(笑)。

仙石: お帰り問題で、真っ先に帰る人のスピードも驚嘆

のひと言です。僕が受けていたクラスではたいてい一番で帰って行くのは麻布の友だちで、それはいい刺激でした。その全く逆で、僕は一度、お帰り問題で最後まで残ってしまったことがあります。その時はさすがに悔しくて「絶対に見返してやろう!」と思いました。先生もいろいろ話をしてくれて、「期待に応えよう」と復習に燃えました。

吉田:自分にはさっぱり分からなかった質問に答えている人や、自分が全然できなかった要約で満点を取っている人たちを見て「ああスゴいな」と思っていましたし、そういう「ああスゴいな」がグノの授業ではいっぱいありました。でもそうなる。

ういう人たちに囲まれていたので モチベーションは上がりました。やっぱり、自分が断ト ツにできる環境ではだれると思います。自分より上だと 思える人がたくさんいることで努力したいという気持ち が生まれてきます。

森 圭太 さん(理I・学習院)

仙石: 延長授業が長いということにも最初は驚きましたが、やっぱり授業が面白かったので時間のことはすぐに気にならなくなりました。ただ、他の塾に行っている友人に話すとかなり驚いていました。大手の予備校に行っている友人は、10分、15分の延長で大騒ぎしていたので、グノとは全く違う授業のやり方なんだろうと思っていました。

吉田:大手の予備校だと、先生が一方的に話をしている

だけなので、授業の内容にも興味を持てないことが多く、 ほとんどの生徒は授業が早く終わった方がいいという気 持ちになります。

森: 僕はグノの延長授業はありがたいと思っていました。 演習した直後にすべての解説をしていただけるからこそ 深く理解できるわけです。興味を持って先生の解説に耳 を傾けていたので、終了時間のことは全く気にしていま せんでした。

英語力がついた時期

仙石: 実は、グノの中で力がついてきたと感じたことはあまりないんです。周りによくできる人が常にいたので。ただ、学校の成績は着実に伸びました。高2になる頃には、定期考査でほとんど勉強しなくてもあっさりいい点が取れるようになったし、模試でも英語は安定してきて、「これはグノのおかげ」と思っていました。

やっぱり音読が力になったと思います。グノでやった プリントを読み直して音読するということしかやってい ませんが、それだけでも点数に結びついていったので、 勉強のやり方は間違っていなかったと思います。

森: 力がついたなと実感したのは高1の時です。最初に入った時はα2でしたが、クラス分けテストの度に一つずつクラスが上がっていき、2回目のテストでαに入ることができて、この時期にすごく英語に自信が持てるようになりました。それ以降はずっとαを保つことができました。どうしてその時期に力がついたのかと聞かれたら、そこでグノーブルに通ったから、としか言いようがありません。グノの授業を受けて理解しているだけでも、英語の力は伸びると思います。

吉田:僕の場合、急激に伸びたとの実感を持った時期は

ありません。それよりも、授業で演習をしているときに、英文を読むスピードが上がったなとか、知らない単語や理解できない文章が減ってきて徐々に力がついてきているなとは感じていました。でも、それは実は高3になってからのことです。

中学生の頃から通っていたにもかかわらず、それまで音読をやっていませんでした。新高3になったときに、「よしやろう」と意気込んで音読をしばらく続けてみましたが、学校の行事とかが忙しいといつの間にかやめてしまっていました。心を入れかえて再開してもまた続かなくて、そのうちに「ふと思いついたら音読」という程度に落ち着いていました。それ



吉田 崇裕 さん(理1・筑波大附属駒場)

でも緩やかではありましたが英語の力は上がりました。 高2までは圧倒的に苦手科目だったのが、受験期には、 点を稼げるわけではないけれど、足を引っ張るわけでも ない、というところまでは伸ばせたと思います。

「苦手」と「嫌い」は、割と似ていると思うんですけど、嫌いだからやりたくないじゃなくて、いつかは重い腰を上げて取り組まなければならないわけです。その背中を押してくれたのが、グノの授業でした。僕の場合、努力してみようかなと思えたのはグノの授業が好きだったからですし、努力するための教材も、努力するやり方も、与えてくれたのはグノだったと思います。

東大英語攻略は通過点

森: グノの英語は難度を考えても、量を考えてもどこの 受験にも対応できるものだと思います。僕も早慶を受験 して問題なく合格できました。早慶と東大の一番の違い は単語のレベルかもしれません。でも、グノでいつもやっ ている文脈をしっかり押さえていく読み方ができていれ ば特に困ることはありません。

東大の記述は、読み取ったことを自分で整理して、自分の言葉で表現していくことになるので、より本格的な言語力とか論理力が必要になると思いますが、まさに、それは日頃からグノでやっていることだと思います。グノの演習を通して力を養ってきたので、東大型の問題に慣れていたし得意になっていました。

また、僕は高校生の頃から、将来は留学したり、海外の大学院に進学して化学の勉強をしたいと思っていました。そうなると、言語として使える英語の習得が条件になるので、グノで学んだ英語はそれを実現させるための土台を築いてくれたと思います。

仙石: グノの英語をきちんとやっていれば、どこの大学でも対応できます。僕は東大の過去問は2年分しかやっていませんし、慶應の理工も過去問は1年分しかやっていませんが、どちらもよくできたと思っています。それはやっぱり、受験型の問題を解く力を超えて、本当の意味で「英語を使う力」が鍛えられていたからだと思います。

僕の父は国際会議などに出席する機会が多く、話を聞いているとこれから英語が使えることは最低条件だと思います。グノの英語は、言葉として使える英語に直結していると思います。他塾に行っている友人に聞くと、いろんな括弧をつけながら読

んでいくそうですが、そういう英語力は実際に使えるものではなく、あくまでも受験対策用だと思います。周りの人たちは「受験英語」という試験科目をやっている人が多いと思います。グノの、英語を英語のままという学び方は、将来、英語を使っていく上での基盤になると思います。

吉田: 僕は東大しか受けていませんが、毎回の要約や英作文の添削とか、授業で扱ってきたいろんな分野に渡る英文とか、充実した音声教材とかを考えても、東大が求めている英語に応えられる以上の勉強をグノは提供してくれていると思います。

僕には海外に出て行く具体的な夢があるわけではありません。でも、英語を使う機会はこれから必ずあるだろうし、そういう時に、どんな英語の学び方をしてきたのかということは大きな違いになると思います。それが英語塾としてグノを選んだ一つの理由でもありました。



仙谷 宇 さん (理I・麻布)

グノーブルの数学

仙石: 高2の夏期講習から、数学もグノでお世話になりました。英語の時と同じように学校の友人が「グノは数学もいい」と勧めてくれたのがきっかけです。

英語の授業を通して、グノのやり方が自分に合っていることは分かっていたので、特に他を検討することもなく数学もグノに決めました。数学も不得意だったので、少人数の授業で、先生が一人ひとりを見てくださる授業スタイルが合っていました。

でも、通常授業の入塾テストは滅茶苦茶な出来で、一番下のクラスからのスタートでしたが、秋にはクラスが上がり、その先は受験まで手塚先生にお世話になりました。

数学も添削してくださるので、早いうちから答案の書き方が身につきましたし、先生が一人ひとりのレベルを把握してくださるので、授業も分かりやすく、授業外で個人的に見てくださることもありました。先生が手書きで解答例を作ってくださったので、実際にひっかかりやすいポイントも分かり、数学の勉強不足だった僕としては大きな安心感がありました。

他塾の話を聞くと、グノほど一人ひとりに時間と労力を割いてくれることはあり得ないようです。グノだと、何十分も時間を割いてもらって質問に答えてもらったことが何度もありました。

高3の4月から数学 I A II Bでお世話になった長澤先生からは、「自分の頭でしっかり考える」という姿勢を学びました。先生が黒板で鮮やかに解くのをノートに写しても自分でやれるようにはならないので、いい意味で面倒見が良過ぎない長澤先生の授業が僕は好きでした。あと、付け加えておくと、長澤先生は、授業では厳しいことを言われますが、質問に行けばとても優しくて、とことん付き合ってくれます。

グノーブルの先生について

森:高2までお世話になった秋好先生にも、高3でお世話になった中山先生、本原先生にも共通するのが、知的に興味深い授業をしてくださったということです。

授業の内容を吸収するには、印象深いことが大事だと 思うのですが、グノの授業には、思わず引き込まれる話 や、はっとするような鋭い観察や分析があって、あとあ とまで鮮明に印象が残りました。数か月前のプリントを 復習しても授業の印象が蘇りました。

吉田: 高2までに習った秋好先生と関田先生には、文法 や語彙の土台を築いていただきました。授業にはしっか り集中して、宿題だけはこなしていたので、他に参考書 や単語帳はやらなくても土台となる力はつきました。

高3で習った本原先生には、英作の添削でお世話になりました。英作はやっぱりたくさん添削を受けて初めて力になります。東大英語の中で「英作は得点源だ」と感じられるようになったのは本原先生のおかげです。直前講習で数か月前の提出課題を大量に提出したこともありましたが、嫌な顔一つせず受け取ってくださって嬉しかったです。

高3の読解は中山先生でした。とにかく知識量がすごくて尊敬しています。解説を受けなければ決して理解できない歴史的背景や思想といったことにまで話が及んだので、授業を受ける度に自分の教養が深まった気がしていました。中山先生の話はとても印象深かったので、数か月後に復習しても、本当に内容をぱっと思い出せるのですごく助かりました。受験直前に1学期のプリントを見返しても、最初の5行くらい読むだけで「ああ、あの話か」と印象に残っているものばかりでした。

仙石: やっぱり英文のバックグラウンドまで踏み込んだ 解説を受けると、しばらく時間が経って読み返した時で もイメージとして頭に残っているので再現性がとても高 くなります。単調な解説ではなく深いところまで踏み込 んだ解説をしてくださったので復習がはかどりました。 数学でも、英語でも、どの先生も、僕たちが主体的に 学んでいくのを徹底的にサポートしてくださったように 思います。そこがグノの一番の良さだったと思ってい ます。

映像授業とライブ授業

森: 僕はグノで英語を学んだ以外はすべて映像授業でした。部活を続けていたので時間がなく、融通のきく映像授業に頼らざるを得ないという事情がありました。一番違うのは緊張感です。映像授業なら画面の前でどんな格好をして受けていてもいいし、途中で止めて飲み物を取りに行ったりとか、何かを食べても構いません。その分、問題を解いていても制限時間が甘くなるし、臨場感もないので、グノのような環境の大切さも感じていました。緊張感のある時間を持たないと本番の時に実力が出せないと思います。

また、英語の場合は、グノの先生の良さが分かっていたので、時間がなくても切り換えるつもりはありませんでした。英語のような言葉は、やっぱり教室の中で先生と向き合う必要があると思います。毎週添削してもらえる環境も大切です。

吉田: 僕は映像授業を受けたことがないのでよく分かりませんが、教室の中だと、問題を解いていても解説を聞いていても緊張感があります。自分が分からない問題なのに隣の人がさっさと提出しているのを見るときの焦りとか、当てられた人と先生とのやりとりとか、そういう細かなことからの刺激は絶対に自分のためになります。自分の努力が一番大事なわけですが、勉強って、周りの人に煽られながら伸びていく部分もあるんじゃないかと思います。



森 圭太 さん (理Ⅰ・学習院)

仙石: 僕の場合、グノの先生たちの期待に応えていきたいという気持ちもモチベーションの一つでした。すぐに名前を覚えてくださって、添削や授業でずっと見てくれている先生の存在は大きかったので、東大に合格したいという思いの中には、先生の期待に応えたいというのが間違いなくありました。画面の向こうの先生にはそうい

う気持ちを持つことはできません。

後輩たちにアドバイス

仙石: 僕自身の反省点ですが、高1と高2の間は授業に出て課題をこなす程度でした。主体的には取り組めていなかったんです。それも自分が歩んできた道なので後悔はありませんが、もうちょっと自分で考えて勉強すべきだったと思っています。

実は、高3に入ってからリスニングで苦労しました。それは、音声教材を使った勉強をしていなかったことが原因です。高3になって慌てて始めましたが、リスニングで点が取れるようになるには長い時間がかかりました。音声教材は早い時期から習慣化しておくべきだったと思います。



吉田 崇裕 さん (理1・筑波大附属駒場)

吉田: グノは、学校行事に懸命になることを応援するシステムにもなっていると思います。筑駒は行事が盛んで、高3でも文化祭に力を入れるなど忙しい学校生活でしたが、グノは、授業中の集中だけでもある程度の力がつきます。他の塾は、山盛りの宿題で力をつけようというやり方で、授業はその答え合わせです。グノのやり方なら、部活なり学校行事なり、高校時代にやりたいことに力を注ぐことができるはずです。授業の振り替えも柔軟なので、それを上手く活用しながら高校生活にも励んでほしいと思います。

森: 高校生活では受験勉強以外にも大事なことはたくさんあるはずです。グノは受験塾でありながら、そういう部分をとてもよく理解してくれる塾だと思います。部活や行事で忙しい時は振り替えができます。先生に相談してすべきことに優先順位をつけることもできます。グノなら高校生活の充実と学力の向上を両立できると思います。

それからグノは、主体的に勉強に取り組むことを応援してくれる塾です。充実した英文や豊富な音声教材を提供してくれるので、やろうと思えばいくらでも英語力を高められます。グノの環境や教材を存分に活用して、欲張った高校生活を過ごしてほしいと思います。

8期生 合格者インタビュー

国立·慶應大学医学部

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



thのうえ がく **井上 学** さん (東北大学・開成)



うちだ ともや **内田 智也** さん (千葉大学·早稲田)





できまったく **平松 卓** さん (慶應義塾大学・巣鴨)

Part 2



うえばら たくや **上原 拓也** さん (筑波大学·早稲田)



大島 悠輔 さん (筑波大学·浅野)



が 明**彦** さん (信州大学・穎明館)



まずき だいき **鈴木 大貴** さん (千葉大学·学芸大附属)

8期生 合格者インタビュー 国立・慶應大学 医学部

Part

語源の知識や根本のイメージを持っていると 知らない単語や熟語でも想像できるようになりますし、 こんなに楽しくて魔法みたいな勉強方法はグノだけじゃないでしょうか。

内田 智也さん(千葉大・早稲田)

医学を志した理由

平松: 父が製薬会社に勤めていて、医療についてよく話を聞いていました。企業に所属しての研究には限界があるという話も聞いたことがあります。たとえば、治療薬が求められている病気であっても、利益を見込めない薬の開発には着手できないので後回しになっているということでした。企業に属することなく、自分の力で病気を抱えた人を助けるには医師になることがベストかもしれないと思い、医学部を目指しました。

内田:高2の秋ぐらいに、テレビのドキュメンタリーで総合診療医の先生が、原因不明の症状を的確に診断して患者さんが安心するという番組を見ました。自分も同じような経験をしたことがあって、病を抱えた人に安心を

与えられる存在になりたいと思って 医師を目指しました。

井上: わが家は母親以外医師なので、 漠然と自分も医師になるんだろうと 思っていました。その思いが明確に なったのは東日本大震災です。自分 と同じ年代の人たちが苦しんでいる 姿を見て、医師になって東北地方で 働きたいと思いました。東北大学を 受験したのもそうした思いがあった からです。

大脇: 私の場合、家族に医療関係者がいるわけではありませんが、小さい頃から生き物や人体の仕組みに興味があって、漠然とではありましたが獣医や医師に憧れを持っていました。もう少し具体的な夢になり始め

たのは小学校の頃です。学校で「国境なき医師団」について学び、その後、ユニセフの資料を取り寄せて調べるうちに、医師として国際貢献をすることがとても素晴らしいことに思えるようになりました。今は、世界に目を向けるばかりではなく、地域医療についてもやりがいのあることだと思っています。大学でさまざまなことを学びながら自分の道を選んでいくつもりです。

入塾のきっかけ

井上: 学校の先輩からグノの英語がいいと聞き、高2の 夏から入りました。いろいろと塾の選択肢がある中で決 め手となったのは、少人数で面倒見が良いという評判と、 先輩たちがグノの先生を絶賛していたので、ぜひ自分も 受けたいと思ったことです。当時は英語の成績が思わし

> くなく、プロの先生がいる塾じゃないとダメだとの考えもありました。 現役では結果が出せませんでしたが、 予備校に通い始めてみたら、やっぱり英語はグノだと再認識して、また お世話になりました。

内田:僕がグノに入塾したのは高2の春からです。それまで英検やTOEICに向けた勉強を自分でしていましたが、高2の1月に英検準一級の試験を受けて、読解の点数がぜんぜん取れなかったんです。力のなさを痛感して、本格的な英語の勉強を始めなければと思いました。そんな時に伯母からグノのことを聞いたんです。春期講習を受けてみたら、内容の濃さに感動して「ここに入り



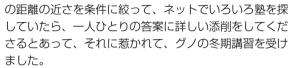
井上 学さん(東北大・開成)

たい!」と思いました。

数学は高2の冬からです。やはり 講習に参加してみて、すごくいいと 手応えを感じ、受験までの一年間を グノに託しました。

学校の友人に何人もグノ生がいま したが、早稲田では英語も数学もグ ノの評判はすごく良かったです。

大脇: 私は数学の方が早くて高1の 冬から。英語は高2の春からです。 先に数学に入った理由は、中3から高1まで英語の専門塾に通っていましたが、そこの宿題が多くて数学に手が回っていなかったのです。最初は大手の予備校の数学に通ってみましたが、100人対1人という授業は私には合わないと思い、生徒と先生



平松: 知り合いからグノの英語は面白いし力もつくと聞いて、それで、英語には高2の春期から入りました。数学は高3の夏期講習から。追い込み期にみっちりお世話になりました。

グノーブルの英語

井上: 浪人してから席を置いた予備校の授業だと、こっちががんばっても眠くなってしまいました。グノの授業はテンポよく進むので緊張感が途切れることがありません。

とても良かったのは、文章の内容が面白かったことです。たとえば、ヒッグス粒子発見のニュースが報道された二日ほど後の授業で、そのことがプリントになっていたこともあり、あまりの早さに驚きました。それに限らず、毎回の英文がありきたりのものではなく、それについて解説をしてくださる先生の話も興味深く、英語力の向上だけでなく、さまざまなことを知って教養も深められたと思います。グノで扱った内容を家に帰って母に話していたら、「あんたも大人になったね」と言われたこともありました(笑)。

内田: 英単語を語源までさかのぼって説明してくださる ことに、まず感動しました。英単語がこんなに覚えやす くなるのは革命的でした。

高3の冬からの読解の授業では、教養面でも厚みが増しました。質が高くて興味深い英文を読んで先生の解説を聞いていると引き込まれていくので、それで自分の英



内田 智也 さん(千葉大・早稲田)

語力を大きく高められたのだと思い ます

大脇: 私も単語帳を使わないことに 驚きました。前の塾では単語帳を使っ て毎週テストという授業でしたが、 そうした詰め込み型の暗記ですと、 その週は覚えていても翌週には忘れ てしまって、なかなか単語力が伸び ませんでした。ところがグノのように、 語源までさかのぼって有機的に覚え れば忘れることもありませんし、英 文もスラスラ読めるようになってど んどん楽しくなりました。

井上:たとえば、"describe"「~を 記述する」という単語が出てくると、 deは「下」で、scribeは「書く」だと 説明してくれるんです。それだけで

も「下に書く」だから「~を記述する」のだと分かりやすくなります。そこから、scribeつながりで、"inscribe"「中に書く:~を刻み込む」、"prescribe"「前もって書く:(医師が薬)を処方する」、"scribble"「走り書きする」とか、他にもどんどん紹介してくれるんです。黒板での展開に興味を持っている内に一気に単語力が身につきました。

内田: 英単語をイメージで把握できるようになったのも大きかったです。たとえば、前置詞のイメージを先生がよく黒板に描いてくれたり、動詞のイメージを自分の手や体を使って表現してくれましたし、2回目以降になると、「〇〇君、"take"のイメージ手でやって」とか、生徒にいきなり当ててくるんです。"take"のイメージをしっかり持っていると、"overtake"や"undertake"もすぐ頭に入るし、ラテン語由来の-sumeの意味が"take"だと教わると、"consume"や"presume"もすんなり覚えられます。

いろんな意味を持っている多義語も、根本のイメージを説明してくれて、そこからいろんな意味に広がっていくのを説明してくれました。語源の知識や根本のイメージを持っていると知らない単語や熟語でも想像できるようになりますし、こんなに楽しくて魔法みたいな勉強方法はグノだけじゃないでしょうか。

平松: 僕はコツコツ勉強ができるタイプじゃなかったので、一つの語根を学び、それが3つにも4つにもどんどん派生していくという学び方がとても合っていました。

楽しみながら英語を学ぶ

平松: 英語は苦手なわけではありませんでしたが、特別に好きな科目でもありませんでした。 ところが先生がい

ろんな興味深い英文を用意してくださったおかげで、英語に興味がなくても、テーマに惹かれて授業を受けているうちに、気がついたら英語が好きになっていました。 成績も伸びました。

大脇: 私も英語には苦手意識はありませんでしたが、以前は、問われている部分だけに注目して、英文の内容までは考えていなかったんです。そもそも、英語という教科で扱われる英文が面白く読めるものだなんて考えたこともなかったんです。

ところが、グノだと、先生が興味深い英文を持ってきて、単語や文法解説をするだけじゃなくて、その英文の背景にある思想や筆者の考え方まで楽しそうに解説してくださったんです。英文を読むこと自体が面白いということが分かって、英語の勉強が本当に楽しくなりました。

あと、私は社会科学が苦手で知識がなかったのですが、 先生が解説で分かりやすく説明してくださったことで、「あ あ、そうしたことが背景にあったんだ」と知識もだんだ んと増えて、最近は社会科学にも興味を持っています。

内田: 僕も、英文を読むことの楽しさはグノに来るまでは知りませんでした。テストで点を取るということでいえば、以前から英語は得意科目の方でしたが、英文を読むことが楽しみの対象なんて発想は全然ありませんでした。

グノの勉強で、読解力自体も大幅 に伸びて、英語でも新しい知識や情 報が得られるようになりました。自 分にとって大きなプラスでした。

井上: グノに入る前は本当にひどかった英語が、結果的には一番の得意科目になりました。その理由は、英語が好きになれたことに他なりません。

グノで扱う英文の内容は本当に何度読んでも面白くて、ちょっとした空き時間、たとえば塾の行き帰りにいつも読んでいました。先生の解説も巧みなので理解が深まるし、面白くて理解できている英文であれば復習しやすくなる、というか、復習したくなります。それで成績がますます上がるという好循環が生まれました。

他塾の教材は、大学入試の過去問だったり、英語の勉強のための英文なので、中身がありません。グノのプリントは先生が僕たちのために選んでくださったものだから、テーマ自体がタイムリーだったり、内容に味わいがあったので、文構造がつかめないときにも読みたい気持ちが湧いてきて、推理する力も鍛えられました。

ちょっと驚いたのは、浪人してから再入塾の相談をし

たら、現役のときとはすべての教材が違うから大丈夫と の話でした。先生たちは大変なエネルギーを使って教材 を開発しているのだと思います。

平松: 受験が差し迫ってくると、だんだんニュースを見る時間も減ります。そういう時期にも、日本では報道されていないようなニュースまで先生が教材にして持ってきてくださるから、そこで社会とつながっていたというか、家でそのことについて調べたりして、それが気分転換になったこともよくありました。

英語力がついた時期

平松:高2の春に入って、冬前には英語力がついていると実感できていました。それまで学校の授業でしか英語に触れてこなかった自分にとっては、グノの授業のスピードの早さ、1回の授業で扱う英文の多さは英語力を上げた大きな要因でした。読む英文の量がものすごく増えて、知っていた単語や文法事項でも、実際に使われているのに何度も出会って、意識しなくても意味がとれるものになっていきました。

大脇: 私は何回か伸びを感じたことがありましたが、大きく伸びたと感じたのは高3の秋でした。その頃に要約

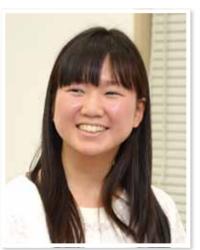
の点数が安定しました。要約をする には、深い読みも、全体が見渡せる 力も必要だと思うので、その頃に総 合的な読解力がついてきたのだと思 います。

私は、音読も習慣化していましたが、その前提として知識をちゃんと定着させるようにしていました。先生が板書される内容はノートに写していましたが、プリントを音読したり黙読するときに、そのノートも見直して、翌週までにはしっかり身につけておくようにしていました。

内田: ここで伸びた、という時期は 分かりませんが、高2で入塾した当 初は、英文を読んでいても内容が頭 に入ってきませんでした。同じ文を 何度も読んだり、構文をつかもうと

あちこちに目を向けたり、日本語に置き換えてみたりという感じで。それが、高3の後半には、読めばそのまま意味がスーッと頭に入ってくるようになっていて、「英語を読めるようになったな」と思っていました。

井上: 僕がそれを実感できたのは高3の夏頃です。僕の場合、それはちょっと劇的な瞬間でした。音読を続けていたことの効果が出てきたのだと思いますが、あるとき英文を読んでいて、「あっ」と思ったんです。戻る必要が



大脇 京佳 さん(秋田大・雙葉)

ないというか、返り読みをせずに英文の意味が取れるようになったんです。設問に対しての精度はその頃はまだ改善されていませんでしたが、とにかく、「英文が読めるとはこういうことか」と気づいた瞬間でした。

受験英語とグノーブル

井上: グノに通ったおかげで、受験では英語が武器になりましたが、大学に入ってからも役立つ英語力の土台を築けたと思います。ただ、語学は常に触れていないと力が下がってしまいかねないので、1年生のうちから英語の勉強はしっかり続けていくつもりです。大学でもグノでやった大量の教材をいろいろ引っ張り出して活用し

ていきます。これを素材に音読を続けたり、シャドーイングを続けたりして、なめつくしていくことにはすごく意味があると分かっているからです。

グノの英語は受験英語よりもっと 意味のあるものだと思います。テストで点が取れても、英文をすらすら 読めるようになっていなければ意味 はないと思います。

内田:確かに、僕の場合もグノの英語は受験でもとても役立ちました。でも、グノで培った力は受験以外の局面でも通用するものだと思います。これまでグノの教材は受験のための教材として使ってきましたが、これからも英語力を上げる素材としても、読み物としても残しておきたいと思います。

大脇:私も、もともと、グノに通っている時にも、受験勉強のために英語をやっているという感覚がありませんでした。受験が終わってTOEFLのリーディングの過去問をやってみたところ、簡単だと思えたんです。グノでやってきたことは受験勉強だけで終わらないんだなと思いました。

平松: グノの英語は受験勉強で完結することを目的としていないと感じていました。授業でも、英語のまま読めるようにするためのアドバイスが随所にありましたし、ネイティブの人たちの論理や感覚についての言及も先生はよくされていました。他の塾や予備校だと、過去問を持ってきて、受験英語のテクニックや受験の心構えを中心に据えていると思いますが、グノでは、受験のことにももちろん触れますが、もっと大きな目標に向けての授業だったように思います。それでも、結果として受験英語にも十分な力がつきました。

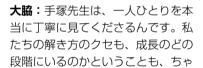
グノーブルの数学

内田: グノに入って手塚先生の指導を受け、数Ⅲ Cの成績は飛躍的に伸びました。手塚先生は本当に丁寧で親切な先生でした。授業の解説が丁寧で分かりやすいだけじゃなくて、添削では細かな点までしっかりと見ていただけました。

長澤先生には、数学への向き合い方というか、数学の本質的なところを教わって、最初に授業を受けたときにはちょっと感動を覚えました。

基礎力の養成をしていた僕に、難問に立ち向かう力を 授けてくださったのは越川先生です。一番大切な極意は

「視野を広く」ということです。難問に向かうときには、ありとあらゆる方法を考えて、その問題にふさわしい解法を選択していく必要がありますが、具体的にそれができるように指導してくださったのが越川先生でした。たとえば、一見簡単そうに思える解法でも実は計算が大変になったり、逆に解法の糸口を見つけるのは大変だけど処理が簡単になるものとか。どのやり方がベストかを見極めて、仮に途中で行き詰っても、抜け道を見出せることが大事だということです。



んと踏まえた上で指導をしていただけました。

平松 卓 さん(慶應大・巣鴨)

高3の夏期講習の添削のコメントに感動したことがありました。その頃は伸び悩んでいましたが、「一つひとつの問題に時間をかけて考える勉強は大切です!」と書かれていたんです。「そうか!」と思い、そこから夏休みの間は問題にじっくり取り組み、いろんな方法を自分で試すように心掛けました。秋からすごく伸びました。私が解いている姿まで見通していらっしゃるようでびっくりしました。

越川先生については、やっぱり「視野を広く」という言葉が印象的です。同じ問題でも違った解き方があるものや、違う問題でも同じようなアプローチで解ける問題など、いろいろなパターンを持ってきてくださったので、多角的な見方ができるようになりましたし、解くためのさまざまな手段が得られたのですごく良かったです。

平松: 僕は高3の夏期講習から数学を取りました。それまでは、なんとなく数学をやっているという感じだった

ので、途中で詰まってもなぜ詰まるのか原因が分からないままだったのです。夏期講習で受けた手塚先生の授業で、根本に目を向ける姿勢に変われました。たとえば微分は一種の作業のようなものですが、なぜその作業をするのか、なぜそれをやろうと思ったのかという点への意識が、以前の僕には欠けていたのです。

それに、数学を初めて受講した僕にも、手塚先生は本当に親切丁寧に指導をしてくださいました。医学部に合格するためにグノの数学をぜひ受けたいと思いました。そこから最後までお世話になって、数学はなんとなくの閃きではなく、その解法に至る理由が必ずあるということを学べました。



井上 学さん (東北大・開成)

グノーブルの先生たち

井上: グノの先生方は教え方が一貫しています。僕は 英語だけでしたが、いろんな先生にお世話になりました。 そのすべての先生が、英単語は語源からとか、英文を その語順のまま解釈していくとか共通していて、途中 でクラスが変わっても戸惑うことがありませんでした。 すべての先生がすぐに名前を覚えてくださいますし、 丁寧な添削をしてくださるところも同じで、僕らが「い いな」と感じるところはすべての先生が共有されていま した。

内田: 熱意にあふれているのもグノの先生の特長だと思います。それは延長授業という形にも表れていますが(笑)、でも僕はその延長がありがたかったです。楽しい授業でしたし、時間がきたから「はい、ここまで」という塾が多いと思いますが、それでは未消化になって困ります。

グノの場合は、英語も数学も最後まで緊張感を持って 取り組めましたし、中身が濃い授業だったので時間が経 つのを忘れていました。

大脇: 英語も、数学も、講習で取った小論文でも、グノの先生は一人ひとりの生徒をしっかり見ていてくださいました。少人数のクラス編成で、しかも添削もあって、数学では答案を書いている途中でも見にきてくれてアドバイスをいただけることもありました。生徒としては安

心感のある環境がグノには保たれていると思います。

先生が添削している様子が見えるのも励みになっていました。私たちが演習中に、先生は一番前の机でこちらを向いて、黙々と添削をしていらっしゃるんですが、短時間での添削は大変だと思います。その姿を見て、「私もがんばろう」という気持ちになっていました。

平松: どの先生も生徒に対して丁寧です。生徒の気持ちに立って接してくださっていると感じていました。たとえば英語の和訳で、生徒は必ずしも正しい訳し方ができるわけではないのですが、たとえ方向性がずれているときにもバッサリと切り捨てられることはありませんでした。そこで自分が軌道修正していけるようなヒントをくださったり、待ってもらえたり、僕たちが自分で気づける配慮をしてくださいました。すぐに先生に正しいことを言われてしまうと、生徒としては間違えただけになってしまいますが、もし、僕たちがその場で直せれば、やっぱり少し嬉しいですし、自信になります。

映像授業とライブ授業

井上: 映像授業では質問もできませんし、距離感もあるし、集中する気持ちにもなれないし、グノの授業とは違い過ぎるんじゃないでしょうか。

内田: 映像授業は受けたことがありますが、まず目が疲れました(笑)。そこはまだいいのですが、モニター越しの授業なので迫力が足りません。グノの場合はバンバン質問されますが、映像授業はそれがないので緊張感にも欠けます。



内田 智也 さん (千葉大・早稲田)

授業中に当てられるのは大事なことです。答えられれば嬉しいし、答えられないと悔しい気持ちにもなりますが、頭だけじゃなくて気持ちも動いていると授業が印象深くなります。自分には答えられなかった質問に、他の人がサクッと答えてしまったりすると、それでまた「がんばろう」という気持ちにもなれました。

大脇: 大手の予備校などでは授業が一方通行ですが、映像授業になると、その一方通行感が増してしまって全然モチベーションが上がりませんでした。やっぱり、生徒

と先生が同じ教室にいて、向かい合いながらの授業がい いなと感じました。

平松: 僕は何度か映像授業を受けています。ライブ授業の方が優れている点はたくさんあると思いますが、分からないところはもう一回再生するといった、ビデオにもそれなりの利点もあると思いました。ビデオも一概に「ダメだ」と決めつけることはできないと思います。

医学部の面接

井上:基本的に、合否には試験の成績が重視されるはずと思っていましたし、その点で、今年は自信があったので面接対策はしていませんでした。

ただ、圧迫してくるような面接官がいるのは経験から 言っても事実です。それに対して、冷静に対処できる度 胸は大事だと思います。それには、虚勢を張らず、等身 大の自分でいることがいいのではないでしょうか。僕が 面接の練習をしなかったのも、正直な自分でいることが 一番だと考えていたからです。心にもないことを言うと、 逆に突っ込まれた時に矛盾したことや間違ったことを 言ってしまうかもしれません。変に緊張してしまうこと にもつながります。

内田: 僕は、面接本を読む程度の対策をして臨みました。 昭和大と千葉大を受けましたが、昭和大の方は面接官が 優しくて話しやすかったです。もちろん突っ込んだとこ ろまで聞かれたことはありましたが、自分が普段から考 えていることを落ち着いて答えるようにしました。

一方、千葉大の面接は、7分ずつ3人の面接官と交代で話をしました。その面接官一人ひとりが問題を与えてきます。それがやたらと難しい内容で、過去の例では、「不死の薬があったらどう使うか」とか「タイムマシンがあったら医療にどんなメリット・デメリットがあるか」など、そんな奇問もあったようです。

今年は、一人の面接官に「ファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミークラスというように、医療の内容に差をつけるということについてどう思うか」と訊かれました。理由をつけて「いいと思います」と答えましたが、正直なところ、あまり上手く答えられたとは思いませんでした。それに、周りの人は長く話が続いていたので、「ええ?僕はなんでこんなに早く終わっちゃったんだろう」とも思いましたが、合格はしたので、きっと問題はなかったのだと思います。考える時間も与えられるので、しっかり考えて自分の意見を話すことが大事だと思います。

大脇: 医学部を志望する動機が割とはっきりしていたので、対策はあまり立てずに面接を受けました。でも、中村先生の小論文の講習で、マトリクスという手法を習って、それを継続していたことが面接のときにとても役立

ちました。

ある一つの時事問題に対して、「現状の問題点」「過去の対策」「日本人の文化的背景」「自分の考える改善案」をまとめてノートに書くのを続けていたら、時事問題への理解も深まりましたし、結果として面接対策にもなりました。

秋田大は面接の配点が高くて、面接時間も長く、いろんなことを聞かれましたが、「引きこもりについて述べてください」という質問もされました。マトリクスで、引きこもりについても自分でやっていたので、「あ、これだ!」と思い、原因や状況、文化的背景と改善案を述べたら、面接官も「ほう」と感心してくださいました。

平松: 千葉大と慶應大と慈恵医大を受けました。中でも 千葉大の面接は厳しいと言われていましたが、普段から 考えていることしか話せないと思っていました。特別な 対策をするというより、日頃から医療系のテーマをニュー スで見かけたら調べたりするなどして、少しずつ自分の 中で考えを深めていくことが大切だと思います。

ただ、もちろん知識はあればあるほどいいとは思いますが、面接に力を注ぎ過ぎて学科試験の方の勉強を疎かにしていたら意味がないので、面接対策はほどほどにした方がいいと思います。



大脇 京佳 さん (秋田大・雙葉)

後輩たちにアドバイス

平松: 塾に通う以上、先生を信用して、授業にも集中して、時間を無駄にしないように意識を持って勉強に取り組むことが大事だと思います。あと、適度な息抜きも必要です。

内田: 僕の経験からは、英数については、グノの授業、 グノの先生についていけば確実に力は伸びるはずです。 グノを信じてがんばるべきだと思います。

実は、僕はセンターがあまり良くありませんでした。 国語が122点しか取れなかったのが原因です。それで も二次試験で逆転できたので、最後の最後まで諦めたら だめだなと思います。

かといって、がんばり過ぎたり、思い詰め過ぎたりするのも良くないので、適度な息抜きをすることも、やは

り大事です。僕は最後まで1日30分ゲームに没頭して 勉強を忘れていました(笑)。

実は、僕自身、中学受験のときに思い詰め過ぎてしまった経験があるのです。その時の経験から、絶対に諦めない、だけど適度に息を抜く、ということの大切さを学びました。

大脇:自分に合った勉強法がそれぞれあると思うので、それを試行錯誤しながら確立していくべきだと思います。 私も最初は、どうしたら数学が伸ばせるか、どうすれば 英語の力をもっと伸ばせるかが分からないところから始 めました。いろんな勉強のやり方を試してみて、「これ がいい」と思えるやり方を突き詰めていったら伸びたと いう経験があるので、勉強法の試行錯誤は大事だと思い ます。

井上: 誰でも必ず壁にぶつかることがあると思います。 そういう時には、まずは「自分には乗り越える力がある」、 「乗り越える道がある」と信じることが大事です。なぜ成 績が伸びないのかという原因を考えて、どうしたらいい



平松 卓 さん (慶應大・巣鴨)

かもしっかり考えることです。

ただ、自分で考え尽くして上手くいかない場合は、ためらわずに先生のアドバイスを仰ぐべきでしょう。いろんな先生がいらっしゃいますが、この科目ならこの先生、という「師」と思える信頼できる先生は自分で見つけていけばいいと思います。

ただ、やっぱり一番大事なことは、「オレならいつか 乗り越えられる! |と強く自分を信じることです。

8期生 合格者インタビュー 国立大学 医学部

うえばら たくや 上原 拓也 さん (筑波大・早稲田) まましま ゆうさげ 大島 悠輔 さん (筑波大・浅野) 一 明彦 さん (信州大・穎明館) まずま だいま 鈴木 大貴 さん (千葉大・学芸大附属)

Part 2

受験勉強と聞くと大変そうなイメージがありますが、僕自身は、受験勉強をしにいくという感じではなく、 グノには楽しい気分で通えていたし、そうした気持ちで勉強ができたから、

本番でも英語が武器になるくらい力がついたので、グノの授業をとことん楽しむべきです。

鈴木 大貴さん(千葉大・学芸大附属)

医学部を目指した理由

鈴木:高3で進路を決める時になって、「大学では興味のあることを学ぼう」と思ったことが医学部を目指した理由です。昔から医師を熱望していたわけではありませんし、医学部に入れば勉強が大変なことは分かっていましたが、医学を学ぶことには興味がありました。

大島: 小学生の頃アレルギーがひどく、いい先生に出会って改善されたという経験があります。高2の秋頃に進路について真剣に考え始めた時に、小学生時代のことを思い出して医学の道に進もうと決心しました。ただ、臨床医になるかどうかはまだ決めていません。将来の方向性

は大学で学びながら考えたいと思います。

上原: 僕は小さい頃から動物が大好きで獣医になるのが夢でした。中3の時には職業体験で動物病院にも行きましたし、「獣医になろう」と決めていました。ところが高2の頃に、祖母が足を痛めたことをきっかけに、また親の勧めもあって、医学のことにも目を向けることになりました。あらためて自分と向き合いながらいろいろ考え、医学の道に進もうと決めました。今は臨床医になることをイメージしています。

邢: わが家は癌の家系で、僕が高1の時に身近な家族も癌になり、それを契機に癌の研究をしたいという思いが芽生えました。信州大学は癌のプロフェッショナルコースがあることを知り、最終的な志望大学として決めました。

入塾のきっかけ

上原:グノに入ったのは高2の4月です。それまでは他塾の英語に通っていましたが、もっと深く英語を学びたいと思い、レベルの高い塾を探し始めました。その頃、幼なじみのお姉さんがグノに通って東大に入ったという話を聞き、幼なじみもグノに通っていて強く勧めてくれたので、入室テストを受けました。英語には結構自信があったのですが、テストの結果は一番下の α 3*。ちょっとびっくりしましたが、レベルが高いところを求めていたわけですから入ることにしました。

早稲田の同学年では、僕が初めて のグノ牛でしたが、成績もどんどん 上がって、通っていて楽しい塾だっ たので周りにもグノを勧めているう ちに、学年一位の友人もグノに入っ て、早稲田生がどんどん増えました。 大島: 入塾は高3になる直前の春期 講習からです。僕も以前から英語は 塾に通っていましたが、力がついて いる気がしていなくて、成績も上がっ ていませんでした。そんな時、母が グノの噂を聞いてきて興味を持ちま した。とりあえず春期講習を受けて みたところ、初日から驚きました。 これまでとは全然違う授業の進め方 で、受けていて授業の内容が頭に入 るし、やる気が湧いてくる感覚があっ

て「ここなら間違いない!」と確信しました。

鈴木:兄もグノの卒業生だったこともあって、高校入学と同時に入りました。兄の勧めもありましたが、部活にも力を入れたかったので振り替えの融通がきくグノの仕組みも魅力でした。高校受験で培った英語力にさらに磨きをかけたかったので、しっかり英語を学べる塾がいいという思いも強かったです。

邢: 高2の夏までは別の予備校にいましたが、どうも物足りなさを感じていて、そんな時に学校の友人に勧められたんです。それから、「大学への数学」という雑誌にグノの卒業生が登場する広告が毎月載っていて、その内容もすごく気になっていました。そこで9月からグノに移りました。グノの授業は、「大学への数学」に載っていた卒業生の言葉通りで、とてもパワフルで楽しくて、それまでの予備校とは全然違って感動しました。

グノーブルで感じた驚き

上原:最初に驚いたのは、教室に時計がないということ

*この学年の英語は、q(最上位)から、q1、q2、q3までのレベル設定でした。

でした。延長が長いことは前から聞いていたので、「時間が気になるのでは?」と思っていました。ところが、教室に時計がないので時間を気にすることもなく、授業に集中していると、いつのまにか時間が経っていました。これは毎回のことで、グノの授業で退屈することは一度もありませんでした。

それから、英単語を語源から覚える方法です。以前の塾では、語呂合わせとかで単語を覚えていて、これは違うんじゃないかと思っていました。グノの指導には感動しました。たとえば、ムカデは"centipede"ですが、centiが[100]でpedeが[足]です。漢字でも[百足]と

書くことや、「100年」の"century" や、自転車やピアノの"pedal"との関連を示されると、思わず説明に引き込まれます。以前は、無理矢理詰め込むようにして英単語を覚えていましたが、すんなり頭に入るようになりました。

大島: グノの特徴は、授業中に演習があるということです。ほとんどの塾は、宿題を解いてきて、授業では答え合わせと解説という形式だと思います。そういうやり方だと、授業を受ける頃には予習していたときのことは忘れてしまっています。グノでは、その場で解いてすぐに解説という授業なので、気になっていたことや自分が考えた筋道をしっかり覚えているので理解の深さが格段に違



上原 拓也 さん (筑波大・早稲田)

いました。

鈴木: グノでは授業の始めにその日の演習プリントが何枚か配られます。最初は英文だけが印刷されているきれいな紙です。それに自分の答案を書き、先生が添削をしてコメントを書いてくださり、解説の時にもいっぱい書き込みをしていくと、余白までぎっしり文字で埋まっていきます。僕はプリントがそうやって変化していくのが好きでした。

そのプリントの蓄積は、他には代え難い自分だけの教材です。授業中の作業を通して、配付されたものを自分だけの学習教材に仕上げていくのは楽しかったです。

あと、驚きと言えば、グノには本当に優秀な人がたくさんいることです。添削用のプリントは、終わった人のものを先生が集めていきますが、後ろの人が提出し、周りの人がどんどん提出し、隣の人も提出しているのに、自分は分からなくて答案が書けないときは苦しかったです。それでも、グノの先生は「まだできないの?」みたいなことは絶対言わないし、そういう目付きも絶対しないので、自分なりに徹底的に考えて出せたのは良かったと

思います。もちろん、そういう時の出来は最悪でしたけど(笑)。

大島:「グノは授業で当てられる」ということは聞いていましたが、まさか一回の授業の中で、あれほど頻繁に当たるとは思っていませんでした。最初に当たった時は焦って、思考が止まってしまいました(笑)。しかも、その問題に次の人がスラスラ答えていて、随分悔しい気持ちを味わいました。でも、そんな気持ちがあったからこそ、授業で習ったことぐらいはしっかり復習しようという気持ちにはなれたし、だんだん度胸もつきました。

上原:僕も同じような気持ちになったことがあります。 最初は α 3 からのスタートで、割に早く α に上がること ができましたが、そのときには周りのレベルは本当に高 くて圧倒されました。周りの人たちが次々答えていくの を目の当たりにして、「もっと頑張らなきゃ!」と励みに しました。

邢: 僕はα1からでしたが、入っていきなり難しい問題を配られて、「ええ!これを解くのか」という感じで、面食らってしまいました。ところが、解説を聞いて別の衝撃を受けました。語幹を軸にした英単語や派生語の説明は分かりやすくて、しかも面白くて、「こんな英単語の覚え方があるのか!」と、心の底からすごいと思いました。

また、グノは先生と生徒の距離 感が違います。予備校の先生はそっ けない感じがします。チューター とのやり取りはありますが、先生 は雲の上のような存在で、質問す るにも並ぶのが当然でした。そも そも大手の先生は僕たちのことを

知ってもくれていないですし。グノでは授業の後にすぐ 質問できるし、生徒のことを分かっていてくださるので 安心感と信頼感がありました。



大島 悠輔 さん (筑波大・浅野)

楽しみながら英語を学ぶ

上原: グノの先生がしてくださる英単語や文法事項についての解説は、ネイティブの感覚に根差していたり、その表現の成り立ちに立ち返った話なので、言語を学ぶ楽しさを味わえました。

それから、どの先生も英文の背景を詳しく話してくださったので、授業が楽しみでした。以前は、歴史や芸術など、文系の知識を積極的に得ようという取り組みはしていませんでした。はっきり言うと興味がありませんでした。ところが、僕にも分かりやすく、楽しそうに先生

がお話しされると、ついついこちらも聞き入っていました。 授業を受けるたびに、どんどん教養に幅と厚みが増すようでした。

大島: 英語の勉強と言うと、普通は、内容的にはどうでもいい英文が用意されています。グノでは、内容自体に興味が持てる英文が用意されるので、演習するときにも、自分から読みたいという気持ちが湧いてきましたし、解説も楽しく受けられました。

過去問をまとめただけの分厚いテキストが渡されるのではなくて、グノでは毎週教材が配付されるので、ニュースになったばかりの話題も教材になっていて新鮮でした。 以前は、授業の復習は面倒くさいものだと思っていましたが、グノの場合、英文の内容に興味が持て、何度でも読み返したくなるので、自主的に復習も進みました。ときには「もっと知りたい」という気持ちにもなって自分で

調べたりもしていました。

鈴木: 他だと、英文の内容が面白いことはまずありません。勉強へのモチベーションを上げるのは本人にまかされている気がします。グノだと、話題が理系的でも文系的でも、なにしろ英文の内容が面白くて、毎回、塾に行くときに「今日はどんな英文だろう」と期待感を抱けました。漫然と塾に行く、という感じではなかったです。それに「そういえば、こういうこともあるんだよ」という先生の話も面白くて、グノの授業はすぐに時間が過ぎてしまいました。

邢:学校でグノに通う友人と「中山 先生の教養の深さには誰も勝てない だろう」という話をよくしていました。 英文の深いところまで、僕たちにも

分かりやすく話してくださったのですが、先生の話を聞くと、思わずはっとして、その後、感動するんです。単なる物知りな先生ということではなくて、視点の向け方が鋭いし、話の展開も面白くて、聞いていること自体が楽しいんです。中山先生に巡り合えたことで、自分も視野を広く持ちたいと思えるようなりました。表面の理解に終わらず、その奥にあるものまで知りたいと思えるようにもなりました。こうしたことは絶対に他の塾ではありえないことです。

鈴木: 先生の話で僕がよく覚えていることの一つは、ある有名企業の製品がなぜ売れるのかという話です。人間心理を突いた販売戦略の話がすごく面白くて、聞いたままを学校で友人に話してインテリぶることもできました(笑)。なにしろ中山先生の守備範囲は広いし、分析が鋭くて面白かったです。

英語力がついた時期

鈴木: 学校では英語の成績は悪くなかったのですが、グノで授業を受けていると、 α の人たちは皆優秀なので、「割とできない方なのかなあ」と感じていたんです。ところが高3の夏に東大模試を受けてみたら、英語の点数は良く、リスニングもすごく簡単に聞き取れて、「実はオレ、英語できんじゃね?」みたいに思いました(笑)。そのとき初めて少し自信を持てました。9月以降は要約でも点が取れるようになって成長を確信しました。

復習では、音声教材を集中して聞き込むことを重視していました。ただぼんやり聞くのではなく、ほぼ同じ速度で内容が理解できるかを試しながらやっていました。そのやり方が僕には良かったと思います。その上で音読をしていました。

とにかく、グノには復習用の音声教材が揃っていたし、 やり方も具体的に教えてくれていたので、授業の復習は やりやすかったです。

大島: 僕の場合、最初に入った時のクラスはα3で、すぐにα1まで上がれたので、グノでの勉強の効果は早くから出ていたと思います。実際、夏に受けた模試の成績にそれが表れました。

以前から英語は好きな科目だったのですが、点数は取れず、英語が他の教科の足を引っ張っていたのです。夏の模試を受けた時には、他の教科と同じくらいの偏差値が取れて、「苦手じゃなくなっている」と感じました。そこからは、どんどん成績も上がって、実感としても伸びていると感じ、「もっとやろう」という気持ちにもなれました。僕にとってはグノでの勉強は順調だったと思います。

伸びた理由は音読です。毎晩30分は続けていたので、その積み重ねが決め手だったんじゃないでしょうか。音読をするにしても、ただ声に出して読むのではなく、まず頭の中で授業を再現するように習ったことを思い出して確認し、それから英文

の内容を誰かに伝える気持ちで音読していました。

上原: 僕はα3からαに上がった時、実力の伸びは自分では実感できていなくて、αに上がってからも周りの人と自分を比べて、気が滅入ることもありました。それでもがんばっていたら、高2の夏頃には当てられても答えられるようになって、周りの人に追いつけたように感じました。10月ぐらいに初めて全国模試を受けたら、英

語の偏差値が80を超えて、「このままグノで続けていれば大丈夫だ」と確信しました。

成績が上がった要因は、グノの勉強が楽しかったことです。前の塾は「行きたくないな」と思うこともありましたが、グノは毎週が楽しみでした。だから主体的に勉強を続けられたと思います。やはり楽しくないと勉強に向かおうという気になりません。高1ぐらいまでは勉強は楽しくなくて、音楽ばかりやっていたので、どの科目の成績もよくありませんでした。グノに入って勉強が楽しくなって、勉強に身が入るようになって、それに伴って成績も上がりました。

邢: グノに入る前から英語には自信があって、できる方だと思っていたんです。ところが、グノに入って周りを見たらすごい人がたくさんいて、「まだダメダメじゃん」と自分の力を思い知りました。

そこからかなりがんばって、高3の初めぐらいに英文を頭から読みこなせるようになり、読むスピードが上がった時、新たな段階に移れたなと実感しました。英文を読んで、いちいち日本語に訳さなくても意味が分かる。これは大きな手応えでした。

受験英語とグノーブル

上原: 僕は受験のためにグノで英語を勉強していたという意識はないんです。単純に英語が好きだったので、よりレベルが高いところを目指したいと思いグノに入りました。最後まで「英語が好きだから」という理由でグノに通っていました。大学も推薦で決まりましたから、受験勉強でグノに通っているという感じは最後まで持つことがありませんでした。

大島: 僕は、受験のために英語を伸ばそうと思ってグノに入りました。ところが気づいたら英語が好きになっていて、受験のためだけというより、楽しいから続けているという気持ちが芽生えてきて、徐々にそちらの方の気持ちが強くなっていきました。結局は僕も推薦で大学が決

まったので、最後の方は完全に趣味でグノに通っているという感じでした。

邢明彦 さん (信州大・穎明館)

やはり、受験対策用のテクニック的な授業を受けるのではなくて、言語として英語を学ぶのはそれなりのハードルの高さもあると思うのですが、結局は楽しいし、受験の英語でも高得点につながったと思います。

一言付け加えておきたいのは、受験対策の上でも、グ

ノの先生は手厚いということです。 筑波の医学群を推薦で受けたとき、 何年もの過去問を添削していただ きました。推薦入試の英語の過去 問には解答がありませんでしたから、 解いた答案を先生に丁寧に添削し ていただけたのはとても助かりま した。

鈴木:入った時は高1なので受験 モードになっていませんし、「英語 もコンスタントに勉強しなきゃ」と いうぐらいの気持ちでした。高3の 後半になるに従って、当然自分も 受験モードになるかと思いきや、 そんなこともなく、毎回の授業を 楽しみにグノに通っていました。 そういうやり方で、千葉大の本番

でも慈恵や順天のときでも、英語は得点源になりました。 高3の途中で、「英語は楽しくやって伸びたのだから、 他の教科も同じようにやれば力がつくのでは」と思い、 物理や化学も受験モードに追い込むのではなく、何かし らの楽しみを見つけながら勉強しました。「勉強を楽し もう」と思うと、勉強したくない時間もなくなるし、勉 強したことが頭に入ってきやすかったです。

邢:考えてみれば、グノの英語は受験英語ではなかったと思います。僕は比較的英語に自信がありましたし、さらにグノで英語に磨きをかけるつもりだったので、グノの勉強法が過去問を解いたり単語帳にかじりついたりという明らかな受験向きの学習でなくても気になりませんでした。

グノで、受験英語の枠に収まらない英文を読んだり、 難しい英単語がバンバン出てきましたが、これからも英 語は当然使っていくだろうし、そうしたことは逆にウェ ルカムでした。

グノーブルの数学・物理

上原: 僕の高校は数学で有名な塾に通っている人が多かったのですが、グノを教えてくれた幼なじみは数学もグノで、「グノは英語だけじゃなくて数学も面白い」と言っていたので、それを信じて数学も入りました。本当にその通りでした。

手塚先生は授業も面白いのですが、とてもフレンドリーな先生で、受験の間際まで授業以外の時間に親しく話しかけてくださったので、それで試験前の緊張に重圧を受けることもなく、精神的な支えになりました。

長澤先生は、ビシバシと自分の弱いところを指摘して くださるので、厳しく自分の弱点と向き合えました。め



鈴木 大貴 さん (千葉大・学芸大附属)

げることもありましたけど、そういうときはフレンドリーな手塚先生がちゃんとフォローしてくれました(笑)。

物理にも開講当初から入りました。 最初は受験のために仕方なく入ったんですが、有川先生の授業は予想していた物理とは、いい意味で違っていました。受験に必要なことだけを効率的に扱うんだろうとか、問題をごりごり解いて実戦力をつけるんだろうと思っていたのです。そうしたら全然違って、物理の歴史に沿って指導してくれたので、物理の考えが自然に頭の中に体系化されました。たとえば時計の仕組みを物理学の側面から歴史を追って説明していただいたので、自然に興味が持てるよう

になって、嫌いだった物理への印象が随分変わりました。 グノの物理は開講したばかりだったので、母親などは 不安視していたところもありましたが、僕自身が実際に 授業を受けて手応えを持ったので「やめる気はない」と 言っていました。

グノーブルの先生たち

鈴木:高3になってから化学の講習を予備校に受けに行ったことがあるんです。その時、授業が終わったら担当の先生が速攻で消えて拍子抜けしてしまいました。僕は高1からずっとグノなので、先生がいつもすぐそばにいるのが当たり前だと思っていたんです。

グノの授業では、先生は生徒を当てるときに必ず名前で呼んでくれます。質問にもいつも丁寧に答えてもらえます。教材を忘れてしまったことがあって、そのときにも本原先生が優しく対応してくれました。高校生だからと先生から子ども扱いされた経験はグノではありません。授業を受ければ誰もが思うことでしょうが、中山先生はすごく博識で、英文の背景についていろんな話をしてくれます。それを聞くのは楽しみでしたが、先生の話し方には、偉そうに知識をひけらかすようなところが全然なくて、いつも楽しそうに話してくれたので、聞いているのが楽しかったんだと思います。

邢:以前通っていた大手では、生徒が多かったということもあるのでしょうが、先生は生徒の名前を覚えてくれなかったし、生徒の目を見ることもなかったし、ただ英文を一文ずつ構文解析していく授業だったんです。中山先生は正反対でした。英文を奥深く、そのバックグラウンドまで説明してくださいましたし、僕たちの目を見ながら話してくださったし、どんどん当てていく授業スタ

イルで、「授業に参加している!」という意識を強く持て て、そういう授業スタイルに感動しました。

本原先生の授業はレベルが高くて、文法問題で当てられてもなかなか正解することはありませんでしたが、それでも解説を受けるとすっきりと納得できて、「やっぱり深い!」と感じました。

秋好先生は高2の9月ではじめてグノに入った時にお世話になりましたが、英単語の派生語を次から次に教えてくださり、初めて「グノイズム」を体感した先生です。語源を大事にして、暗記でなく英単語を覚えていくというグノ独自のやり方に初めて触れた驚きは今でも忘れられません。



上原 拓也 さん (筑波大・早稲田)

大島: やっぱり、グノの先生は近いというのを僕も実感していました。以前通っていた予備校では先生がやたらと威張っていて、「教えてやっているんだ」という印象がありました。それだと、こちらから近寄っていきたい気持ちは起こりません。

グノの先生には「教えたい!」という意気込みのようなものが感じられました。質問にもしっかり答えてくださいました。僕たちを当ててくれるのも、実は先生との距離を近くしてくれるものだったと思います。当てられるとドキドキしますし、答えられないと悔しいですけど、先生たちには、僕たちを咎める感じはなくて、励ましてくれている感じでした。

あとグノの教室が狭いのも先生が近く感じられるのでいいことだと思います。

上原:僕は最初の塾選びの条件が、自分のことをしっかり見てくださることが一番のポイントだったんです。中学受験の時、第一志望に落ちてしまったのですが、当時通っていた塾では生徒の人数が多く、先生とのコミュニケーションも取れず、成績を上げることができませんでした。そうした苦い経験をしているので、少人数で自分のことをしっかり見てくれる塾が第一条件でした。グノは名前も覚えてくださいますし、質問にも気軽に行けますし、いつも自分のことも見てくれているんだなと感じていました。

さらに驚いたことは、いろんな先生がご自分の教科に

ついてのみならず、他の分野でも深い知識を持たれていることです。先生たちは好奇心のかたまりなんだと思います。秋好先生だったらお勧めの美術展を教えてくださったり、中山先生は野鳥のことにやたら詳しかったり、授業以外の雑談でも先生たちが活き活きとされている姿から、知的な刺激をもらっていました。

映像授業とライブ授業

邢: 僕は、映像授業には利点もあると思います。理解できないところを巻き戻して見直せるという点はいいと思います。ただ、グノの場合は先生が当てますよね、それが映像授業では絶対にできませんし、数学でも問題をその場で解かせて、それを踏まえて解説するということも不可能です。教科によってはライブの授業でなくてはならないものがあると思います。

大島:映像授業は予備校で受けたことがありますが退屈でした。最後の方は倍速にしたり3倍速にしたりして適当な勉強になってしまい、これなら参考書でもいいと思いました。授業はやはり先生と向き合って受けるべきだと思いました。

鈴木: 理科で映像授業を受けたことがあります。止めたり巻き戻したり、自分で授業をコントロールできるので融通は効きますが、なにしろ退屈です。退屈だからボーッとしてしまうんです。ボーッとするから巻き戻して見直すことも増えるし、結果的には効率が悪かったと思います。

一方グノの授業は自分の都合に合わせることはできませんが、なにしろ授業が面白かったので退屈することがありませんでした。今振り返ってもボーッとしていたことは全くありませんでした。



大島 悠輔 さん (筑波大・浅野)

上原: 僕の場合、先生が自分のことを見てくださることがポイントだったので、映像授業には関心がありませんでした。グノの先生からは、単に受験のための知識を教えてもらっていただけではありません。たとえば、当てられると最初は答えられなくて悔しいですが、そのうちに答えられて嬉しいになり、最後の方ではもっと難しい

問題でも当ててもらいたい、という具合に、気持ちの上でも成長できました。モニターの向こう側の先生とはそんな関係は結べません。



邢 明彦 さん (信州大・穎明館)

医学部の面接

上原: あまり対策はしませんでした。対策をし過ぎると心にもないことを言ってしまうことにもなりかねませんので、ありのままでいこうと思いました。筑波大は和やかでフレンドリーな感じでしたので自分のありのままを伝えることができ来ました。

大島: 僕は面接対策をしっかりした方です。ただ、実際に受けてみたらリラックスしたムードで拍子抜けした感じでした。志望校にもよりますが、筑波大に関しては、あまり大げさな対策は必要ないのじゃないでしょうか。 医師を目指す理由と、筑波大を志望した理由がきちんと話せれば十分だと思います。

邢: 僕もがっつり面接対策をしました。でも本番を受けてみると意外とリラックスした雰囲気でした。

信州大学は8人同時の面接で、基本的には、医師志望 理由とか将来なりたい医師像といったことさえしっかり 話せれば、あとは普通の会話だと思いますが、そういう ことすら話せなかったり、話が矛盾した方向に進む人も いました。

最初に志望調書を書くのですが、そこで「国境なき医師団に入りたい」と書いた受験生がいました。ところがその人は、将来なりたい医師像について聞かれた時に、国境なき医師団のことについては一切触れなかったんです。そこで追い打ちをかけるように面接官の先生から、「国境なき医師団に行ったら信州大学に留まれませんね?」とちょっと意地悪な質問をされてその人は行き詰ってしまいました。

医学部を目指すことを決めたら、普段から自分自身の 考えを頭の中で整理していないとボロを出してしまうこ とにもなりかねません。

鈴木: 千葉大は7分の面接が3回ありました。対策としては、大学の志望理由と医師の志望理由を紙に書いて、自分の言葉で話せるように完璧に覚えました。それ以外

は、医療にまつわる社会常識を頭に入れておくくらいでした。

面接官も、相手はそもそも高校生なのでレベルの高い 答えなど期待していないという話を先輩から聞いていた ので、面接会場で失礼な態度を取らないように注意しな がら、質問に沿った答えがなるべくできるように心がけ ていました。

後輩たちにアドバイス

上原: 勉強を楽しんでほしいということです。授業を受けて、話を聞いて、「楽しい!」と思えた先生が一番だと思うので、自分に合った先生を見つけていろいろ相談するといいと思います。グノにはそうした先生がたくさんいらっしゃいます。

鈴木: 受験勉強と聞くと大変そうなイメージがありますが、僕自身は、受験勉強をしにいくという感じではなく、グノには楽しい気分で通えていたし、そうした気持ちで勉強ができたから、本番でも英語が武器になるくらい力がついたので、グノの授業をとことん楽しむべきです。



鈴木 大貴 さん (千葉大・学芸大附属)

大島:高3になればどこかしらの塾に通うことになると思いますが、塾選びは知名度や友だちが通っているからというのではなく、実際に自分が手応えを感じられる塾を選ぶことがいいと思います。

あと、グノの英語に関しては、正しいやり方で復習できているかを確認して、継続することです。仮に今は「伸びないな」と思っていたとしても、先生のおっしゃることを信じて続けていけば必ず力がつきます。もし、不安になったり迷ったら、先生のところに相談にいけばいいと思います。

邢: 普段から緊張感を持つことも大切だと思います。本番では頭が真っ白になるくらい緊張することもあります。そうなってしまったら持っている力を発揮することは難しいと思います。日頃から、「これは本番なんだ」と自分にプレッシャーをかけて臨むことが大切です。僕はグノの授業中にやるプリントも、本番のつもりで真剣に解いていました。

